



好古山録
下

15
1546
2



5
1546
2



好古

小錄下目錄

雜考

一 招提寺講堂

三 東寺及西寺地

五 垣形脇壁犬防

七 色料瓦

九 日本紀

十一 和名鈔

十三 清輔袋草子

十五 本朝書籍目錄

十六 本朝書

十七 古瓦

二 東寺西院

四 校倉

六 古瓦

八 開院內裏廢址瓦

十 建曆御記

十二 職原鈔

十四 夜鶴庭訓鈔

十六 六朝書籍

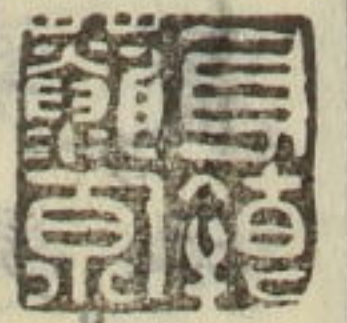
七十 千錄字書
 七十 印本
 九十 囊草子
 三十 葉子
 三十 几帳尺
 二十 同身寸
 二十 權衡
 三十 凍石印
 三十 猿頭磁研
 三十 瓦研材
 八十 朱子文集
 十二 曆日
 二十 粘葉
 二十 古尺
 二十 吳服尺
 二十 古斗
 三十 木印
 三十 澄泥研
 三十 古石研及石材
 三十 小研匣

三十 古墨
 三十 紙屋紙
 四十 籤
 四十 臂囊
 四十 書筒
 四十 葉子形
 四十 驛傳函
 五十 燧囊
 五十 一又一子
 五十 巴紋
 三十 古紙
 四十 杉原紙
 四十 書囊
 四十 麻囊
 四十 竹帙
 四十 文車
 五十 古器
 五十 戴袋
 四十 定器
 六十 獅子牡丹
 四十 厨子
 四十 管形
 四十 革帶

古繡 七
[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

好古小錄下

其好古小錄下其好古小錄下其好古小錄下
貞幹



○雜考

南都招提寺ノ講堂ハ平城宮ノ朝集殿ト云傳ノ

予其結構ヲミルニ朝集殿ノ結構ニ非ズ金堂ノ

結構ヲ詳ニスルニ間架結構疑フベリモナキ朝集

殿ナリ藻井及土壇ハ當時金堂トナシ材ノ義モ

諸堂ノ及ブベキニ非ズ講堂ヲ朝集殿ト云説ハ

古來ヨリ誤リヲ傳ヘタル者トニ云東寶記康曆元

東寺ノ西院ハ建治帝ノ寢殿也按東寶記康曆元

年十二月四日回祿二年造立如元十今其結構
ヲ詳ニスルニ五間四面ノ殿ニテ古製儘存ス北
面ノ裳庇ハ後來添ル所ニノ當時ノ結構ニ非ズ
東西二寺地東寺縁起云東寺桓武帝敕建賜鴻
臚館創之又建武元年九月廿四日塔供養表白
云伏惟當伽藍者桓武天皇敕願之梵宇弘法
大師經始之密場按河海鈔云鴻臚館延曆遷都
ノハシノ東西ノ大官ニ被置之而弘仁以東鴻臚
地為東寺賜弘法大師以西鴻臚館地為西寺賜
修圓僧都其後七條朱雀ニ鴻臚館ヲ建テ置ニ

韓館舍於其中古本拾芥鈔標註引古記云東西
鴻臚館地延曆遷都所定而館舍未成弘仁更移
七條始建館舍故地為護國寺東西二寺是也此
等ノ文ニ據レハ東西鴻臚館々舍弘仁ニ建ル所ニ
ノ東寺西寺桓武帝ノ創造ニ非ル一明ケシ
校倉ハ烈日ニアタレトモ土蒸ノ氣ナリ又雨ニ逢
テ濕氣ヲ含フ故ニ其藏ル所ノモノ數百年ヲ
経ルトイヘ氏魚食ノ憂ナシ古人ノ遠慮往々此ノ
如シ
五 垣形脇壁犬防等ノ名今ハ知人稀ナリ垣形脇壁

ハ近ク六條殿御修理ノ間充ニモ散見ス大防ハ慶
長ノ比ノ註文ニモ見タリ

^六滋賀宮ノ屋瓦至テ得ガタシ世上ニ滋賀宮ノ瓦トテ
賞スルハ皆滋賀寺ノ瓦也余滋賀宮花頭瓦研ア
リ密緻堅實石ニ減ゼズ太宰府廢址ノ瓦ニ一
種此ニ似タルアリ傳云此等ノ屋瓦此間ノ所製
ニ非ズ

^七屋瓦料ヲ用ルハ平城宮殿ニ始ルナラム余乃樂二
條ノ北ノ田間ニ碧料瓦ノ小片ヲ得タリ其製
恭仁宮ノ廢址ニ出ル者ト同ジ平安太極殿亦碧

料瓦也廢址希ニ破壊スル者ヲ出ス又紫褐料瓦
平城宮ノ廢址ニ存ス西京藥師寺ニモ出平安
ニテハ外記廳ノ廢址ニ出又黒料瓦アリ大學寮
ノ廢址ニ出ル者密緻堅實石ノ如ク
^八閑院内裏廢址修木ノ字アル瓦アリ先輩ノ説ニ云
木ハ木工寮修ハ修理職ノ記也
^九日本紀古来ハ全篇訓讀ノ書ニ非ズ故ニ建久年
中ノ本及桃華ノ御本皆ヲコト點ヲ付ルノニサ
レハ日本紀ノ假名ト稱スルハ私記等ノ訓也今ノ
印本ノ如ク悉訓讀セシニハ非ズ悉ク訓讀ヲナ

スハ日本紀ヲ讀ム為ニ作リシ假名本ヲ釋日本紀云假

名日本紀元慶說云為讀此書ヲ私所注出也作者未詳真名ノ日本紀ニ十

ラベテ書入テ讀ニシメシガ傳ル者ナラム

^十禁祕御鈔ハ即建曆御記ニメ真名假名相交リタリ

近古悉ク真名ニ書更テ名クルニ禁祕鈔ヲ以テ

ニ建曆御記ノ舊文ヒタリ

^{十一}和名鈔文字ノ小異同四五種ニ及ブ天文傳寫

ノ本ハ別本也實ニ定本ト云ベシ

^{十二}職原鈔ハ元題號ナリ卷首夕、百官ノ二字アルノ

ニ後人猥ニ増補ヲナシ官位鈔明職職原鈔等

ノ名ヲツケタリ然レニ其題號ナキ者モ亦一種

ニ非ズ

^{十三}清輔袋草子先輩ノ說ニ袋ニ秘シタル草子故ニ名クルト

云ハ非ナリ囊葉子ニ書タル故ニ袋草子ト名ヅ

クル者也

^{十四}夜鶴庭訓鈔三種一ハ樂書一ハ衣服ノ書一ハ入木ヲ

書也然ノ入木ノ書ハ二種アリ

^{十五}本朝書籍目錄俗ニ御室目錄ト云卷尾云永享十

一年冬清大外記業忠依御註進之此事體源抄

ニエタリ

書辭ヲ對テ好ニ其除學好ハナリ

國朝古昔六朝ノ書籍ヲ傳フ故ニ足利學校ノ七經
 豐宮崎文庫所藏尚書等皆六朝ノ文字ヲ交ヘ
 本用ニ余弘安二年所寫ノ孝經ヲ藏ス此ニ同ジ
 寶曆中越後國ノ僧古董店ニ金剛經ヲ買フ魚食
 用ユベカラス裝背ヲ加フ其軸ニ書アリ寛治三
 年^巳六月書干祿字書軸按仁平ノ比干祿字
 書ヲ用ユル古記ニ見ユ當時スデニ行レシヲ知
 ベシ然レハ當時ノ書正俗ヲ別テ用ユキニ龜
 移善善妙妙新料ノ類符牒等ニ用ル者舉テ
 數フベカラス是皆六朝ノ書ノ傳リシヨリ世々曰

循ノ用來ルトニユ

建内記嘉吉元年四月十五日云晦翁集傍注云朱熹集事也
 三十冊賣本被召置禁裏此代八百匹自長橋
 局到來送清大外記許畢彼請取進局畢後日本
 人^了淳請取外史見送之加一見返遣畢先輩此
 ヲ以朱子文集本邦ニワタリシ始トス然ルニ享保
 中伊賀國ノ僧兆藏主^は者京師骨董店ニ朱子
 文集ノ零本ヲ得卷尾ニ永和四年^{戊午}九月讀
 了^{略下}嘉吉ノ前六十餘年也
 國朝印板ノ書何ノ時ニ始ルヲシラス法隆寺傳ル所ノ

多羅尼アレドモ銅板トミユ貞觀ステニ木印ア
 レハ梨桑ノ印板後世ノユトニハ非ルベシ然ルニ
 今隻字存スル者ヲミズ按白山社牛玉ノ札ハ久
 安年中ノ刻ニシテ其板今猶存ス佛經ハ東鑑ニ
 寛元二年六月三日於大殿御方被供養百部摺
 字法華經蓋是所被加後鳥羽院御追福也形木
 則以彼救筆被彫之一部ノ書ハ正嘉二年刻ノ
 性靈集アリ○論語ハ世上ニ正平板ヲ印本ノ
 始トスレ氏跋云堺浦道祐居士重新命工鑄梓
 トアレハ此已前ステニ印本アリシトミユ。

二十

曆日ヲ印行スルノ時ニ始ルニヤ天正中ノ印
 行曆日稀ニ存ス又活板國字曆アリ天正已前
 ノ者ト云印板片假名曆アリ余缺本ヲ藏ス首
 尾破裂ノ年號考フベカラズ

二十一

囊草子ハ旋風葉ナリ讀書敏求記云雲烟適眼録
 隆慶三年秋八月周曰東從至正二十年夏願手
 抄本重書一過字畫端楷且與屋士錢叔寶諸公
 友善共相模寫洵一名士也録云焦達卿有吳彩
 鸞按書畫譜書家傳引宣和書譜云吳彩鸞自言
 西山吳真君之女太和進士文蕭客鐘陵中
 秋夜彩鸞在歌場中蕭心悅之遂偕往蕭拙於為
 生彩鸞小楷書唐韻一部市五千錢為餽口計不

書之所市不過前數歷十年蕭與彩鸞各乘一虎仙去引虞集道園學古錄云龍興紫極宮寫韻軒世傳吳仙嘗寫韻於此軒以之得名予昔在圖書之府及好車之家往々有其所寫唐韻皆硬黃書之紙素芳潔界畫精整結字道麗皆人間之奇觀也書切韻一卷其書一先為二十三先二十四仙相傳彩鸞所書韻散落人間者甚多余從延陵李氏曾觀其真蹟一先仍作一先與達卿所藏者異逐葉翻看展轉至末仍合為一卷又引張邦基墨莊漫錄云旋風葉者卽此真曠代奇寶曰悟古人玉燮金題之義唐六典所以有熟紙裝演匠之別也自北宋刊本書行世而裝演之技絕矣余幸遇

此韻得觀唐時卷帙舊觀今李氏零替此卷歸之不知何人世無有賞鑒其裝演者惜哉囊葉子名古書ニ三エテ其存スルモノ所謂逐葉翻看展轉至末仍合為一卷者也又囊草子絲及紙縷ヲ以トツルトアリ

粘葉ハ胡蝶裝也按通雅云粘葉謂胡蝶裝○王原叔云書冊粘葉為上縫繼歲久斷絕張子賢言宋宣獻令家錄作粘法予舊見三館黃木白本皆粘葉上下爛界出于紙葉孫莘老錢穆父亦如此孟竒言秘閣宋板書如試錄謂之胡蝶裝王古心

筆録有老僧永光定藏經接縫用楮汁飛麩白芨
糊則堅如膠漆造澄心紙亦用芨糊潢治者裝潢
也略下○疑曜云今秘閣中所藏宋板諸書皆如今
制會進呈試錄謂之蝴蝶裝其糊經數百年不
脱落不知其糊法何似偶閱王古心筆録有老僧
永光相逢古心問僧前代藏經接縫如線日久不
脫何也光云古法用楮樹汁飛麩白芨末三物調
和如糊以之粘紙永不脱落堅如膠漆宋世裝書
豈卽此法耶今古粘葉接縫線ノ如キ者希ニ存
ス二三百年来者縫繼一分廣ハ二分許ニ及ビ

加ルニ糊法佳ナラズ魚食ノ憂アリ

^{二十五}古書ニ葉子ヲ草子ト書又造紙トモ書假借也

^{二十四}大寶令ノ制ハ晉前尺ヲ用ル大寶ノ内外印等

ノ寸法ヲ以知ベシ養老制令ヨリ唐ノ大小尺

ヲ用ユ按和銅六年格ヨリ唐ノ小尺ハ今ノ曲尺

大尺ハ俗ニ云吳服尺也又俗云鯨尺ハ唐ノ御

府尺也按南都西京藥師寺鐫ル所ノ佛足跡記云

ル者也シカルニ長一尺八寸廣六寸ト是小尺ヲ以度

寸ハ誤ナリ巨指端ヨリ踵端ニ至テ一尺六寸比

^{二十五}東大寺ニ凡帳尺ト云ヲ用ユ曲尺ト同ジ

古昔布帛及衣服ヲ度ルハ大尺ヲ用ト云按ニ續日本紀云天平八年五月諸國調布長二丈八尺闊一尺九寸○法隆寺ニ天平勝寶八年ノ調布ノハシニ常陸國信太郡中家郷戸主大伴進納天平勝寶六年十月ノ廿七字アリ賦役令ニ九調布具注國郡里戸アリ闊大尺ノ一尺九寸也帛布ヲハカルニ大尺ヲ用ル明證トスベシ又續教訓抄ニ襲裝束ノ裁縫ヲ載ス其寸法大尺大ヲ以ハカル者也是衣服ヲ度ルニ大尺ヲ用ル證トスベシ然レハ大尺ニ吳服スノ名アルモ古者トスユ

按東大寺所傳天平寶字三年越中國射水郡粟田圖ヲ寫ス所ノ布御府尺ヲ以度ルニ一尺九寸有奇疑ハ李唐ノ物ナラム

同身寸ハ中指ノ中節ヲ以一寸トス本邦食指ノ節ヲ以尺ヲ起ス法アリ此ヲ以衣服ニ製スルニ亦大小長短各其身ニカナラ然ルニ其原始ヲシラズ

民部省厨斗摹本○山科升存今○近江升武佐升同

○東大寺拾合升存今○咸大升見政事要○大升同上

民部省厨斗已下所受見下文○大寶量○和銅量並見續日本紀○宣旨升見厨事類記○按古量有

錢升見文明十六年二月廿六日田券疑反錢升矣○花蘭升見元龜元年七月廿

二日大寶已下升所受今不可知○本供升受今

田券

合六 ○ 厩原升 受今升九合 ○ 川上升 受今升一
 〇二月堂拾合升 受今升八 ○ 寺升 受今升六 ○ 長
 箸升 寺升同 本供升已下南都東大寺所用 ○ 及錢
 升 南都藥師寺所傳天文十五 ○ 南圓堂油升 方徑
 五寸三分 ○ 稻荷御出講升 東寺中綱稻荷神會
 深三寸 ○ 法隆寺大斗 寺ニテ太子升上稱ス徑方
 合六 ○ 法隆寺銅斗 寺ニテツリ升上云受京升
 京升五 ○ 法隆寺銅斗 六斗四升口圓徑二尺二
 寸五分腰廻リ七尺八寸三分深一尺四分重
 三貫三百目餘銘曰重大廿六斤受一石四斗按
 民部省厨斗十合升山科升近江升東大寺常十
 合升其名同ジカラザレトモ受ル所ハ十合ノ八合

升ニノ雜令ニ所謂十合ヲ升トスト云一升ソニ
 昔ス也此三升ヲ大升ノ一升トス三八三升四合
 也此ヲ半分力減大升ノ一升ニメ古升ノ一升
 二合即時行ノ升ニテ九合六夕賀茂社ニ所謂
 九六升也此ニ四夕足シテ今ノ一升ニストス
 天平已來古銅器ノ斤兩ヲ鑄リタル者ヲ以考ルニ
 今ノ權衡斤兩異ナルヲナシ
 編年詩鈔贈吳門周孚尹詩ニ我欲黃楊追舊製象
 犀不稱野人名自註ニ元末諸賢俱用老黃楊木
 根按國朝古昔多李唐ノ制ヲ用ユ黃楊木ヲ印

材トスルヲ貞觀ノ比既ニアリ疑クハ亦李唐ノ
制ナラム 日本紀ニ木印アリ其材考フベカラズ 元末始テ黃楊木根
ヲ用ルニハ非ルベシ

^{三十一}玉印銅印木印竹根印牙印磁印火ニ遇ヘハ皆形存
セズ獨凍石印烈火ニアフトイヘトモ形存ノ用ユ
ベシ然レ凍石印後世ノ物ナレトモ愛スベキ者
也西人若始ヨリ此ヲ知リテ印材トナセシカ猶
考フベシ

^{三十一}昔人ノ所謂瓦研ハイカナハ物ニヤ露及雞冠木 並古
瓦研ノ名ヲ書生故實抄ニ寶物ト稱ノ石硯ニハ名ア

ル程ノ物ハナシ目出キ硯ハ瓦ニアリトニエタリ
一摺紳家ニ古澄泥研アリ其家數世ニレラシラ
ズ余始テ云テ石ニ非ルヲ知レリ其色紫褐密
緻堅實墨ヲ摩スルニ石王寺石ソ堅キガ如シ其
形製ヲ詳ニスルニ異邦ノ製ニアズ此等ヤ昔人
ノ賞ノ瓦研ト稱スル者ナラム天明初年藤子禮
カ家ニノ古澄泥研ヲミル側面ニ永祿三年辛
卯六月日云云ノ字アリ淡黒密緻一摺紳家ノ
研ニ髣彿タリ又余ガ所藏ノ澄泥研形製不雅
清玩ニ供スルニタラズトイヘドモ數百年外ノ者

也此等ヲ以此間古昔澄泥研ノ製アリテ所謂
瓦研ハ澄泥研ナルヲ知ベシ東寺食堂ノ研文安
四年ニ所造ナレドモ麁惡用ニアタラス

東大寺古陶猿頭研アリ寺傳テ僧良辨手澤ノ研
ト云是否ヲシラス按ニ朝野羣載ニ左辨官下
張國應早速進上猿頭硯貳拾口尾事右
左大臣宣件硯等外記結政左右廳并陣頭用途
料宜仰彼國依例令進濟者國宜兼知依宣行之
寄事左右莫忽其勤長治元年九月廿九日左少
史時宗東大寺古研其土其料尾張國ノ所製ニ

似タリ此ヲ以考レハ延喜式ニ猿頭硯トアルモ
石研ニハアラザルベシ又下文ニ所謂甍ハ水滴ナリ
甍カメト訓ス古來銀及銅ヲ以テ製スル水滴カ
メカタノ名アリ甍形ト云フナラフム龜形ト書ハ假
借ナルベシ又或記ニ硯甍トアリ往年或人家ニノ
甍水滴ヲミル圓徑二寸高九分土色碗料東大
寺所傳ノ猿頭研ニ似タリ古色搦スベシ疑クハ古
昔ノ甍ナル者ナラフム

古昔瓦研陶研ヲ用テ石研ヲ賞セズ名アリテ存ス
ル者ハ皆異邦ノ研也故ニ研材ノ出ル所ヲモシ

ラザリシトニ職人歌合ハ畫光信書ハ和長
 卿也研エヲ研キリト云カキノカラ月影ニレハ
 土佐石ノトヨニ石王寺ハ白ニノ堅クテキリ
 ニクキト云辞アリテ始テ土佐石王寺ノ硯材
 ノ一ニユ古代ノ石研 元龜帝御硯材高石
 實 壬生寺所藏ノ紫石研俗ニ忠紫石似テ堅 乾卦研
 天授柔兆執徐仲此三研疑フベクモナキ此間ノ
 夏自造ノ十字ヲ鑄 然ノ材ニ硯心ヲ鑄タル鴨長明ノ研ナドゾ古
 古石研ナリ然ルニ材佳ナラズ製亦至拙也天
 物ナルベキ今石材所々ニ出テ乏シカラズ就中

土佐石王寺雨端ノ類上材也土佐海石也石中
 者ヲ會ム此石王寺丹波銀紋ウルニ易キハ雨端
 ナキヲ佳トス 甲斐奥山端山ノ二種 鳳足若狹上材月輪山城古
 アリ奥ヲ佳トス 佳ナルモ 高雄同山上高島近江同上新坑ニ上
 ノアリ 日光山深黒色上 櫻川沼野寒水島寒水並
 光石材ナレドモ至テ堅シ 陸黒山陸奥堅緻ナル金鳳石三養老内山石後豊
 何モ上材 高田美作古研加茂川石山城高野川石
 得ガ夕シ 城鏡石伊勢俗ニ二見石伊勢白濱白石肥後白濱
 山鏡石伊勢俗ニ二見石伊勢白濱白石肥後白濱
 石紀伊此等皆研材ニ非レニ 高濱肥前希ニ佳木
 葉石越後及諸國堅實ノモノ高山石備後赤間關門

産又豊前ヨリモ同材出天此餘猶用ユベキ者アリ
下ニ布テ研材中ノ麿品ナリ

^{三十五}古屋瓦ノ研トナスベキ者滋賀官深黒色平安大學

寮廢址黒料瓦至堅太宰府廢址瓦紫褐色此外

古佛刹ノ屋瓦ニモ用ユベキモノアルベシ

^{三十六}小硯函圖後三年軍記ノ畫卷ニ三ユ古本平家物

語本會願書覺明籠ノホウダテヨリ小硯ハコ印本ハコ

シタ、フ紙トリ出シテ木曾殿ノ御前ニカシコ

二リテ願書ヲ書略或人ノ隨筆ニ近家宿禰語

テ云イニシヘ算策ニ函ナシ小硯ノ函ニイレテモ

チシ人有シヨリ函ハイテキタリシトゾ此ハヤ

セニヤト予云此説非ナリ義元中ノ宿紙ニ故

紙ノ文字存スルモノ有レハ反古ヲ以スキ返シタ

ルモノナル一必セリ俗ニ宿紙ハ熟紙也ジユクヲ

クセト云此説非ナリ熟紙ハ何レノ紙ニ

^{四十}古代ノ杉原紙ハ板ズキトテ簾メナシ奉書モ杉

原ナレドモ奉書ハスタレメアリ義濃紙ノ類ハ

イカホドウスクテモ皆強紙ナリ

^{四十一}軸頭ヲ牙籤ノ如ク製メ其書名及年號等ヲ記ス

軸ヲ名テ籤ト云南都ニテ往來ノ軸ハ嘗テ古物

數十枝ヲミル其形一ナラス意ニ任セテ造ル者也

今古物アレハ毫釐ヲ差ヘズ模造スルハ泥ムト云
ベシ喪葬ノ文書ニ用ルハ竹ヲ以造ル

四十二

書囊石山寺縁起ノ繪ニ見タレト圖小ニシ其製考
フベカラズ余ミル所ノ古書囊凡テ六ツ其製小
異同アレト長ハ皆一尺二寸許也内一ツ封結ノ
昔ノ一ニ付タルアリ古製ミルベシ封結今ハ名
ヲ知ル人モスリナシ

四十三

臂囊江談鈔及古今著聞集ニ土囊ニ作ル假借也
人車記云仁平四年六月廿日貢士等登省也次
貢士乗車隨身臂袋有納物相具淺沓向朱雀門下中次

試衆懸臂袋於左分註云長和平相公臂袋依重
代物在家今度用之納干祿字書造紙幹按造紙葉子也
硯筆各一紙屋紙三枚或入濕紙於硯或入硯瓶
是為書寫題字也而切韻押韻等入之今度強不
入之臂袋製傳ラズ惜ムベシ

四十四

麻囊ハ豊前國宇佐ノ邊ニハ古製傳リテ今猶此ヲ
用ユ竹ニテアミタル籠ナリ竹籠ヲフクロト云ハ
紺袋ト同意ナリ其又サ今ハ謙帛ハ用ヒズイロ
クニ染タル紙ヲ用ユ囊ノメヨリコボレテニユル体源
氏物語ニ色クコボレ出タルミスノツトスキカゲ

ナド春ノタムケノ又サブク口ニヤトオボユト書ル
ゲニトオモハレ侍ル近来好事家錦繡ヲモテ製
メ又サブク口トテ翫ブハ無稽ノモノ也

四十五

文書筒古物稀ニ存ス余嘗テ見ル所長ハ一尺一
寸許短ハ五寸餘許俗誤テ筆筒ト云夫五寸許
ノ筆管ハ有モスベシ一尺餘ノ筆管ハアルベカラ
ズ又木ヲ以テ造ル者アリ

四十六

羣碎録云書曰帙者古人書卷外必有帙藏之如今
畏祿之類白樂天嘗以文集留廬山艸堂屢以逸
宋真宗令崇文院寫授包以斑竹帙送寺余嘗于

三十七

ゴトナキ人ノ古キ記文ニニエシヲ語ラセタ
フヲ傳ヘ侍ルユメクモラシタモフベカラズ
後三年軍記ノ畫ト此隨筆トヲ以ニレハ今ノ算
策函ノ如キヲ知ベシ然レ其詳ナルヲ得
ガリシニ或人ノ古キ算策函トテ圖シ置タルヲ
ミルニ一ガフベクモナキ小研函ナリ其形今ノ算
策ノ函ト大同小異也曾テ古小陶研ヲ見ル長
四分弱土及料東大寺ノ古陶研ニ
似タリ疑クハ小研匣ニ所用ナラム又南都春日
社ニ古研匣アリ其製略同フノ大ナリ

古昔藤代墨武佐墨並ニ入木家此ヲ賞スル歴々

タレト今殘墨ダニ傳ラズ一佛刹ニ古墨一笏
ヲ藏ス長三寸二分闊七分厚三分半包シ紙ニ云
先師遺物墨元徳二年庚午八月好研ヲ以摩シ
試ルニ光彩漆ノ如シ真ニ上品ノ古墨ナリ何
ノ所ノ製ニヤ乃樂興福寺妙喜院ニ墨摸アリ
銅ヲ以造ル傳云僧空海入唐將來スル所ト面ニ
龍ヲ彫リ背ニ李家烟ノ三字アリ墨工此墨摸
ヲ招牌ニ寫シ又門帷ニ染ル者アリ實ニ古キ
墨摸ナリ延曆年間筑紫斐紙筑紫筆筑紫墨ア
リイカ體ノ物ニカ山下松烟ナドサヘ其名ヲ知

三六

古人モスクナシ
古昔ノ紙全葉ノ尺寸ノ考フベキハ御厨子所預家
延曆末年ノ太政官符ノ摸本アリ云其紙全葉
縦一尺一寸餘横二尺七寸許是當時符牒等ニ
用ル紙ト云又寛治ヨリ建武ニ至テ二百五十
年ノ間ノ太政官符及牒凡六十通許余親クニ
所其紙縦一尺一寸横一尺八寸小異同アリ大
概寸尺此ノ如シ是貞觀以後ノ製ナラム古昔半
紙ヲ用ルト云者ハ横ノ長キ紙ノ半ノ廣サニ抄
タル紙アリテ用ヒシナラム延曆十三年田券ニ

縱一尺許横一尺四寸許ノ紙ヲ用ヒ嘉祥齊衡
 ノ頃縱一尺餘横一尺三寸餘ノ紙ヲ用ル者多
 シ皆延曆制ノ二尺七寸許ノ半紙ナルヘシ又古
 紙ニ縱一尺許横一尺八寸許ノ者アリ伊觀内
 親王ノ願文ノ料紙此ニ同ジ此亦一種ノ寸法ト
 シ子又縱八寸許横二尺二寸許ノ紙アリ大略
 西土大史紙ノ寸尺也此ヲニツニキレハ大概今
 俗ニ云半紙ノ寸尺也
三十九
 或說ニ宿紙ハ還魂ナラズ淡黒色ニ染タル者也其
三十六
 故ハ製鹿ナリトイヘレ故紙ノ墨色此ノ如ク存

三十八
 ス軍器考ノ圖ニ辻家傳來ノ古物トテ載タル
 ハ燧囊ニアラズ或云燧囊兩口ニ一口燧ヲ納
シラガレレ理
或ハ然ラニ
五十二
 戴袋古畫ヲ以考ルニ無星ノ秤無寸ノ尺ノニ近來
 一佛刹所傳ノ古物ヲミルニ其體後世ノ物ニアラ
 ズ書囊ノ如キハ文書ノ數ニ順テ其製廣狹ア
 リ戴袋ノ如キハ大略一定ノ尺寸アルモノトシユ
五十三
五十四
 イ又子キハ猪ノ眼ヌキカナメハ蝦ノ眼ノ轉語
 此間下賤ノ飯盃ヲヤウキ碗ト云ヤウキハ定
 器ト書ベシ老學庵筆記ニ故都時定器不入禁

中_ニ惟_レ用_ニ汝_レ器_ヲ以_テ定_メ器_{有_ル也}

^{五十五}諸

器物ノ紋ニ巴ヲ用ユル者古昔ヨリ多シテ其形

今ト異ナリ古昔畫ク巴ノ形ハ多ハ首尖リテ

一口カラズ古寫_儷樂ノ畫太鼓ノ巴紋神祇官瓦

及醍醐寺法勝寺寂勝寺ノ瓦ノ巴鹿苑寺ノ供

鐘ノ巴紋皆其首尖リタリ菊花ヲ紋ニ用ル_ル何

レノ時ニ始_メテシラス滋賀宮及平城宮ノ花頭

瓦皆菊花ヲ用_ルハ其ヨリ来_ル久シ此等ノ紋

モト何ノ意アル_ルヲシラス

^{五十六}獅子牡丹ヲ取_リ合_セテ錦ニ織_ル者西土ノ古錦

越布之類

其車如世間文車體以板造之ヲ不懸車

人以為信僧侶之

施物實進上皇之料也山槐記云治養三年十二

月五日前關白文車被合目錄

中略文車七兩櫃百

餘合

一作令衛士守護之

^{四十九}高臺寺子院

昌純院アリ驛傳ノ古函ヲ傳_フ長一

尺三寸九分濶四寸九分深四寸五分蓋上驛傳

太宰府

五字アリ又疊子數十枚アリ古製考_フ

ベシ住僧懶惰諸器一物ヲ遺サズ沽却ス後寺モ

亦廢ス

^{五十}佛光寺ノ子院長性院

古器數十ヲ傳_フ其傳_ル

来由ヲシラズ厨子一基底板ノ裏ニ數十字有板
朽テ讀ベカラス其讀ベキ者ハ施入長兼四字ニ
又古革帶一腰アリ石一モ存セズ然レドモ其製
ハ知ベシ又管形一枚アリ元文三年九月近隣失
火器物多ク散失シ革帶所在ヲシラズ厨子破壊
ス惜ベシ管形ハ明和中ニ故アリテ遺失ス

五十

燧囊ヲ佩タル圖古畫ニ散見シテ其製シルベカラス
一畫卷ニ両面共ニ發アルヲ知ルベキ圖アリ
依テ試ニ一囊ヲ製ノ博古訂正ヲ俟シニ其後一
故家傳ル所ノ古物ヲ得タリ余カ所製ト附合

項子京家見王右丞書畫一卷外以斑竹帙裹之

云是宋物帙如細簾其内襲以薄繒觀帙字中旁

可想也按香祖筆記引之州堂作東此間數百年

外ノ竹帙存スル者アリ俗ニ帙篋ト云内襲或ハ

錦繡或絞纈ヲ用ユ美麗眼ヲヨコバシム古昔佛

經ヲ尊ヒ數千卷トイハレ皆竹帙ヲ用テ此ヲ藏

ム又竹帙皆牙籤ヲ用ユ今存スル者少シ東寺

校倉中ニ布ニ存スル者アリ

^{四十一}葉形俗ニ板文古物希ニ存ス東寺ニ所傳建

治帝御物ト云又一古家ニ所藏固ヨリ數百年

外ノ物ナリ其大サ東寺所傳ニ同ジ然レハ其製
 大異同ナキモノトシユ古葉子ノ寸法ノ大概モ此
 ヲモテ知ベシ高野山ニ古葉子形ヲ傳フト云余
 其詳ナルヲ聞カズ
 文^{四十八}車東寺ニ有シガ今傳ラズ圖ハ繪師ノ草子及石
 山寺ノ縁起ノ繪等ニコレリ久安二年十月廿
 八日記引侍從中納言記云今日法皇被供養新
 造御堂被安置丈六尊勝曼陀羅^{號ス佛頂堂}以二品覺
 法親王為導師讚衆二十口件御堂右衛門督家
 成卿所造進也臨供養期調車數十両即載吳錦

ニアリ本邦古昔此ヲ用ヒ此間ニテ摸織シタ
 ルモノ古物儘傳ハル畫家此ヲ繪ク今猶多シ
 獅子牡丹ヲ取り合スル何ノ意義ナルヲシ
 ラズ五獅子ノ如意ノ釵^{ケカリ}鏤モ牡丹也
^{五七}天下太平ノ四字ノ古繡アリ數百年外ノ者也文
 字ノ大サ寸許字畫端正方尺許ノ絹ニ相並ベ
 繡テ餘地ナシ何ノ用タルヲ知ラズ余髫年
 源滿仙ノ家ニ於テ此ヲ見ル

好古小録下終

小難才然其大... 然其...
 大異同... 古... 寸法... 大... 此...
 歌... 山... 容... 然... 此... 具... 形... 傳... 十... 云...
 麟... 鏡... 此... 十... 所... 用... 之... 以... 以... 余... 學... 平...
 卒... 大... 也... 十... 畫... 畫... 五... 南... 又... 繪... 師... 筆... 跡... 墨... 迹...
 天... 不... 亦... 平... 八... 四... 卒... 八... 古... 蘇... 了... 幾... 首... 在... 衣... 者... 因... 文...
五十五
 之... 又... 五... 聯... 并... 人... 吹... 意... 之... 幾... 輪... 并... 坤... 民... 也... 鼓... 洪... 奏... 新...
 聯... 并... 坤... 民... 也... 鼓... 洪... 奏... 新...
 一... 三... 八... 古... 幽... 靈... 軒... 八... 畫... 寒... 此... 又... 餘... 八... 今... 辭... 多... 矣...
 六... 十... 本... 雅... 古... 昔... 此... 又... 用... 之... 也... 間... 二... 而... 難... 繼... 矣...

附錄

民部省厨量烙印

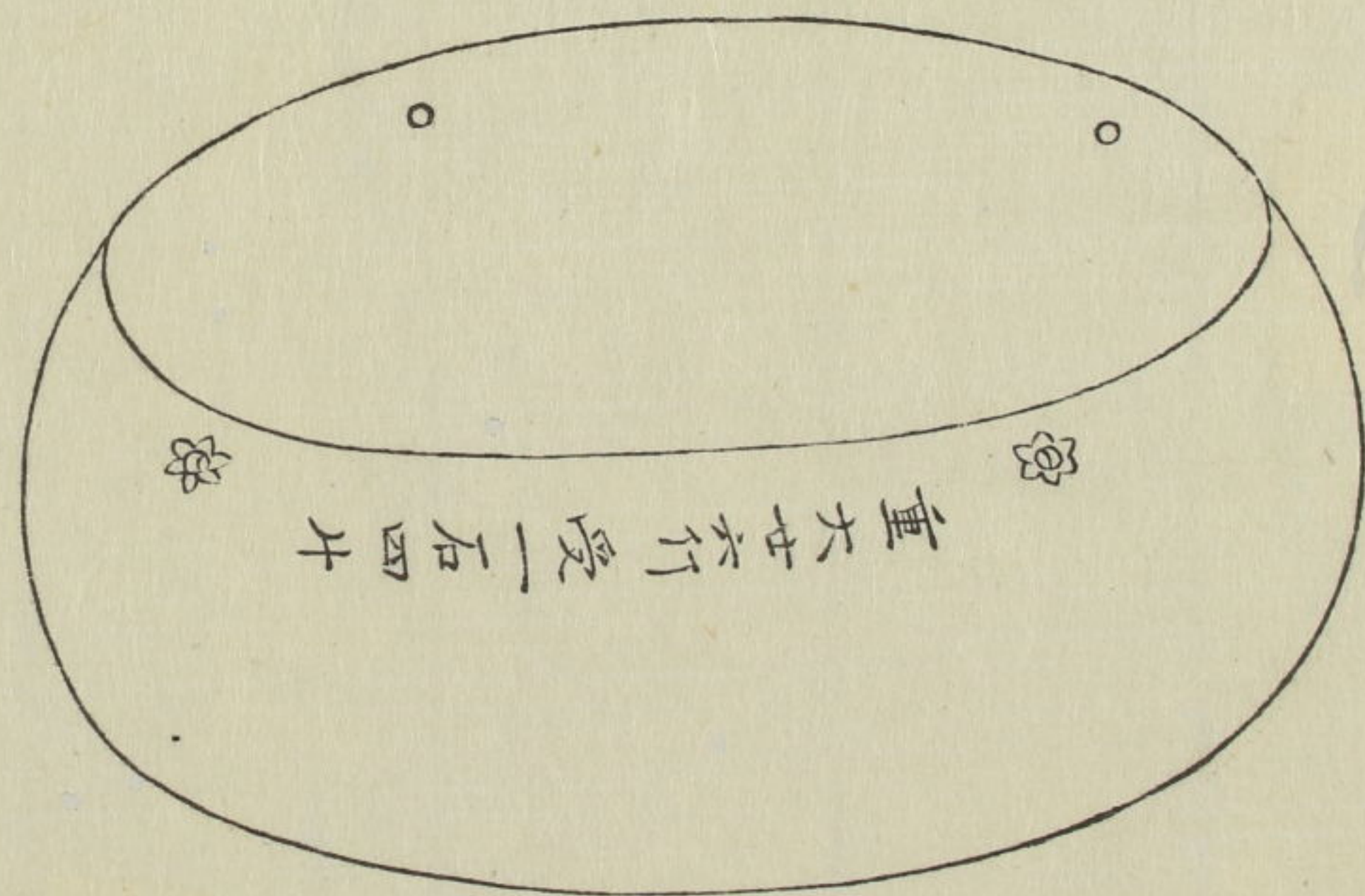


宣字量烙印



銅斗
所傳
法隆寺

口圓徑二尺
二寸五分
腰四尺八寸
深一尺四分



附一

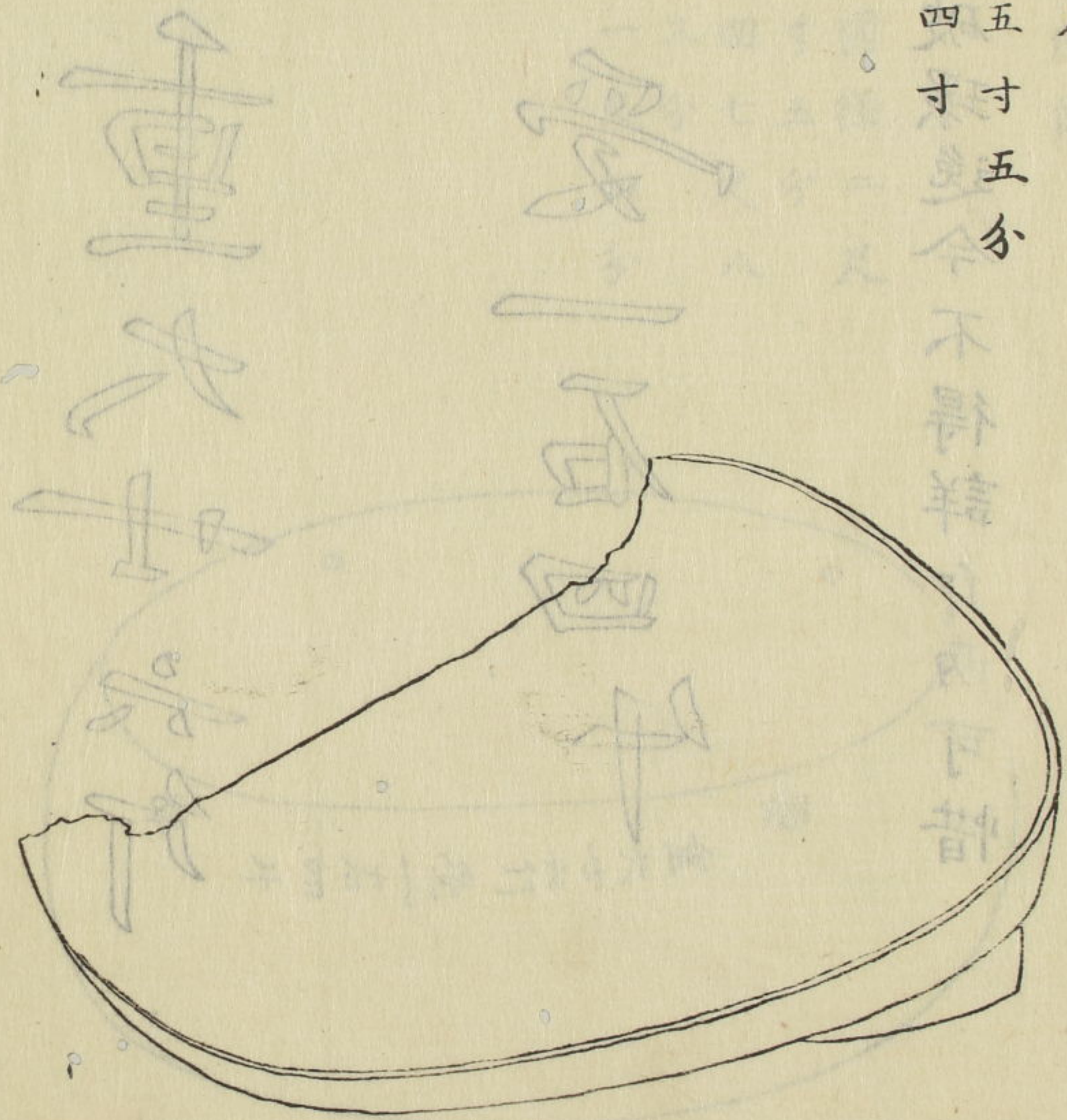
重六廿六斤

受一石四升

底破環逸今不得詳斤兩可惜

古磁研

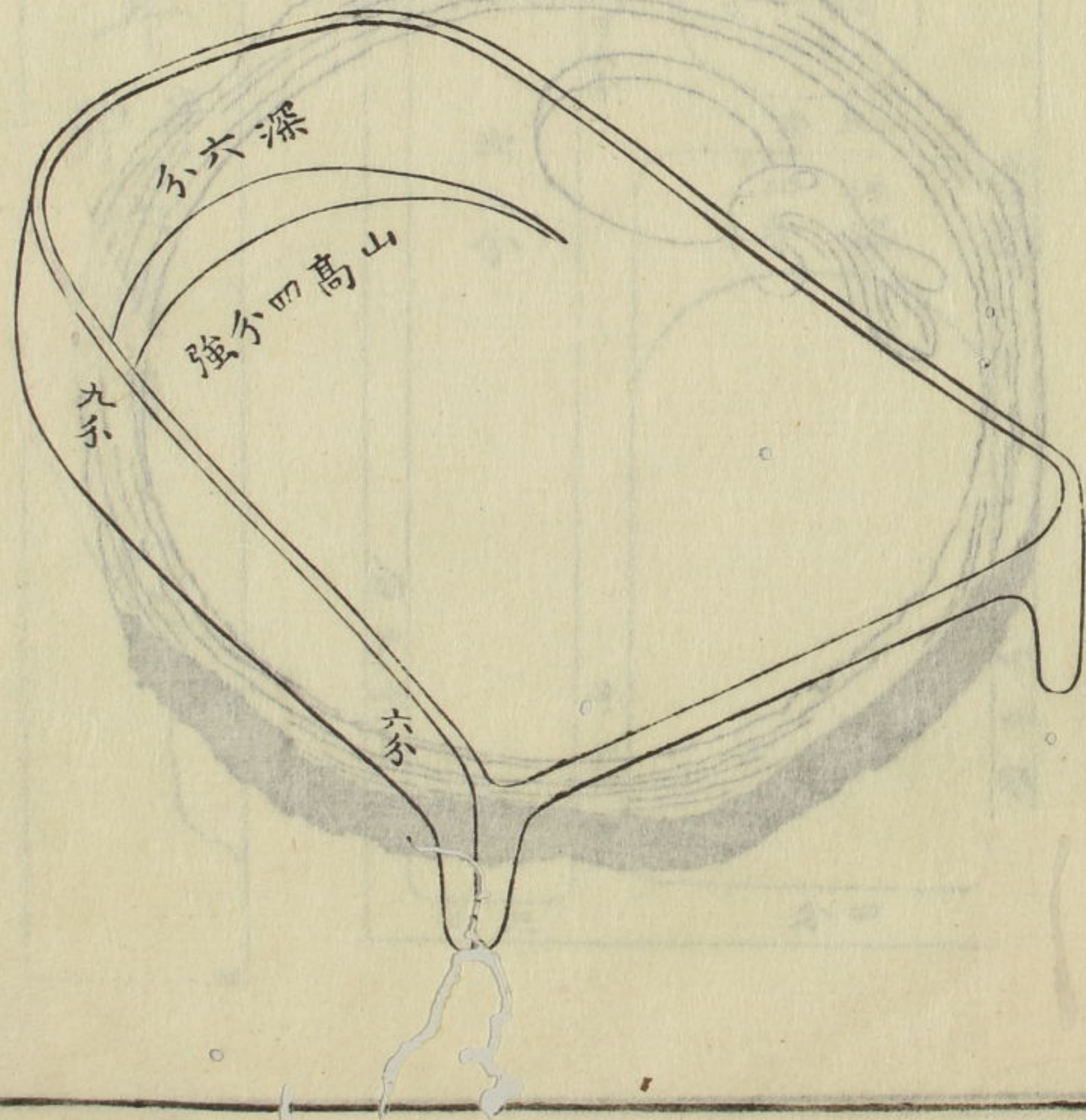
長五寸五分
廣四寸



附二

又

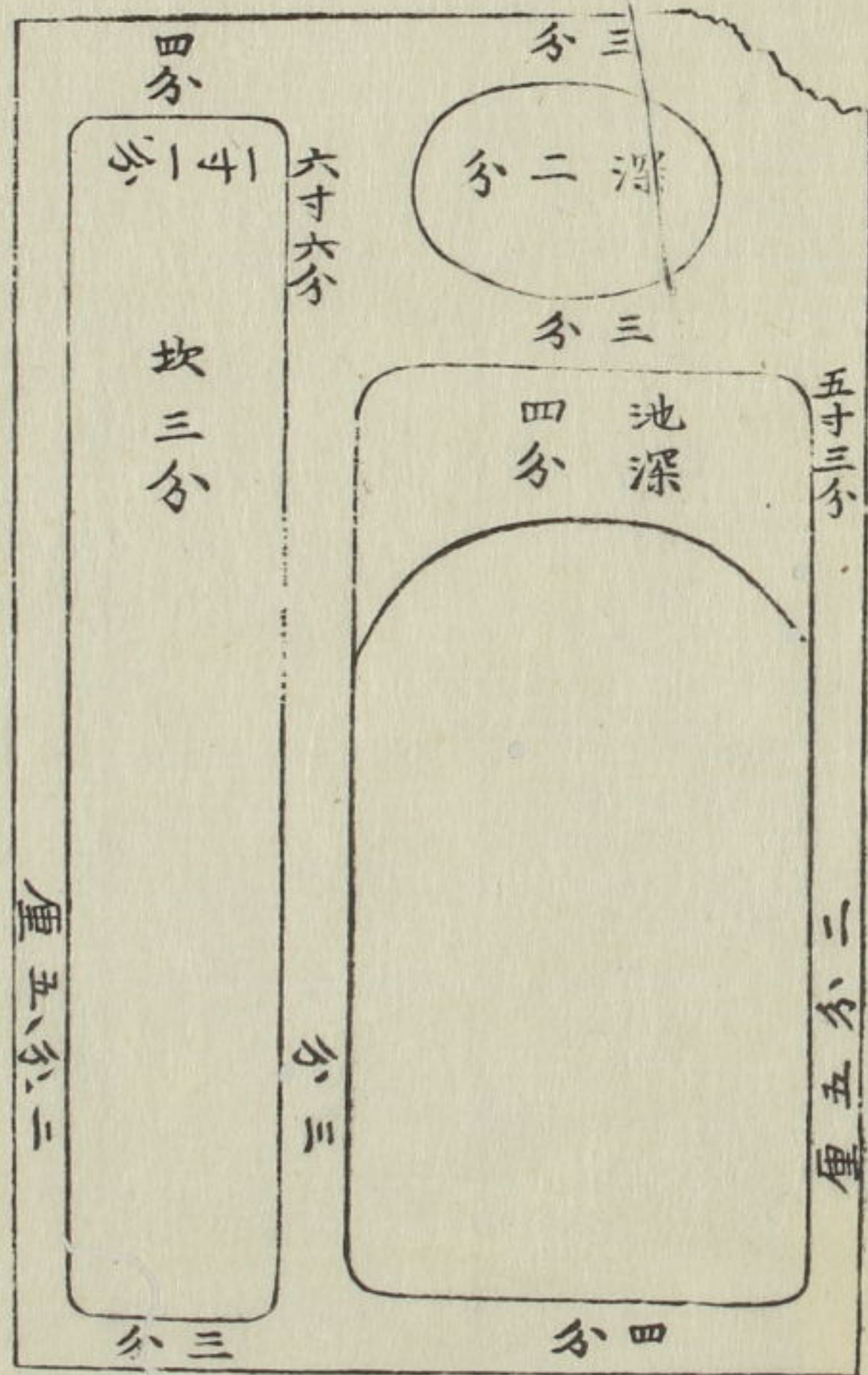
東大寺
所傳
長四寸六分
廣四寸三分
高一寸



面側

永祚三年 辛卯六月日

大



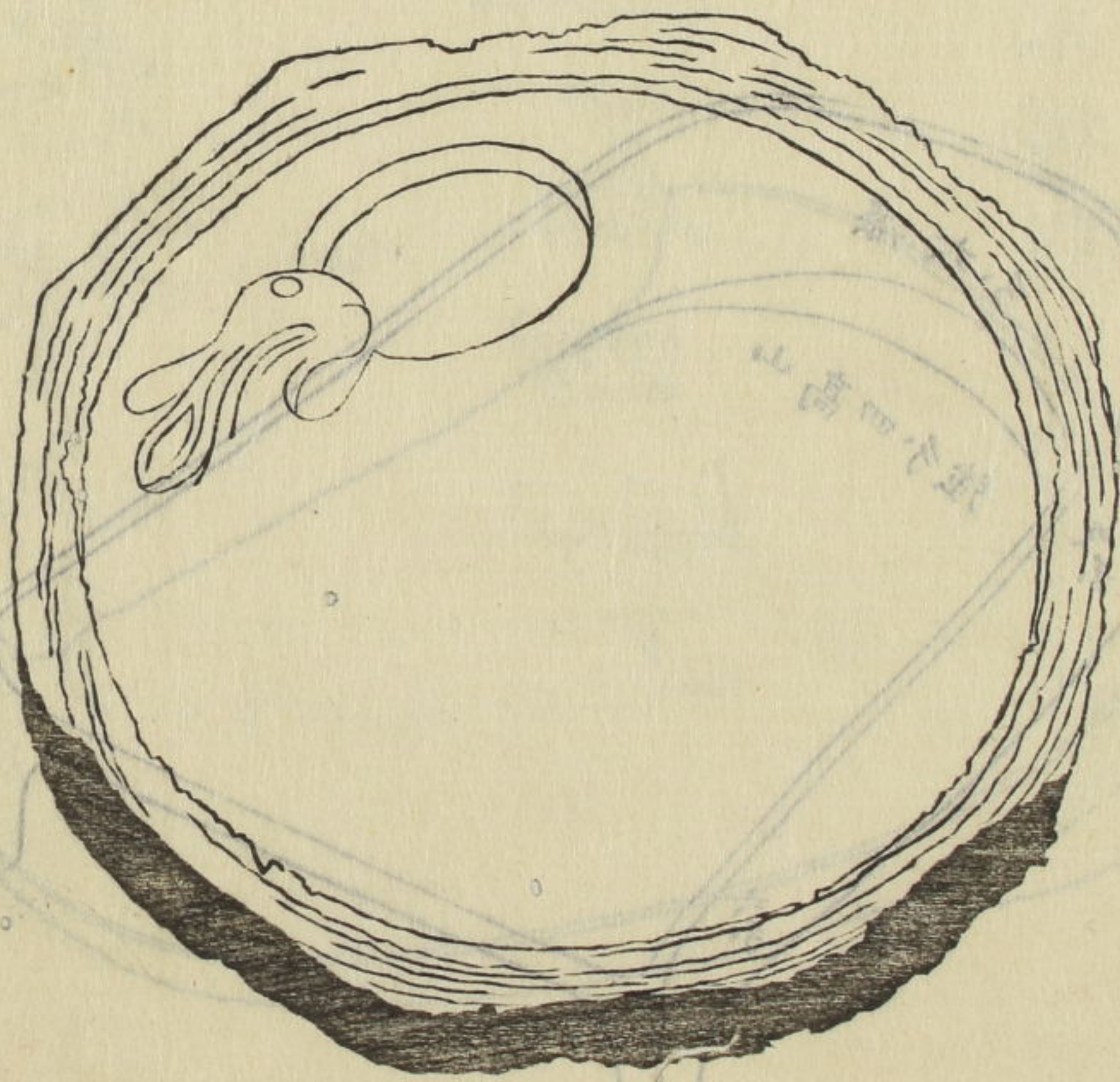
古瓦研

長七寸
 廣四寸
 厚八分
 五厘

澄泥研家藏

圓徑五寸
 厚四分五厘

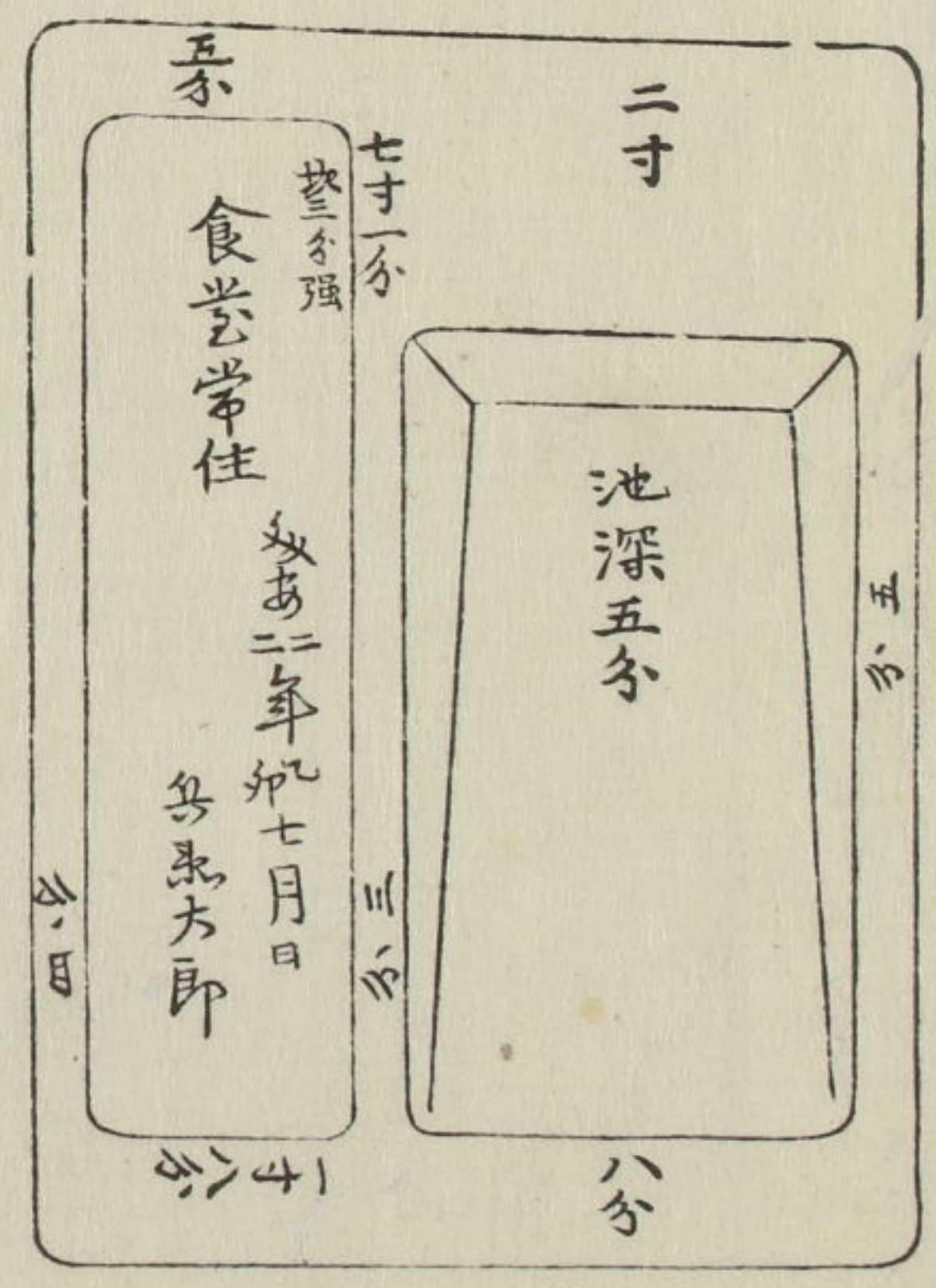
又
 身大四寸
 高四寸
 厚四分
 五厘



附三

又東寺所傳

長八寸五分
廣六寸三分
厚一寸弱



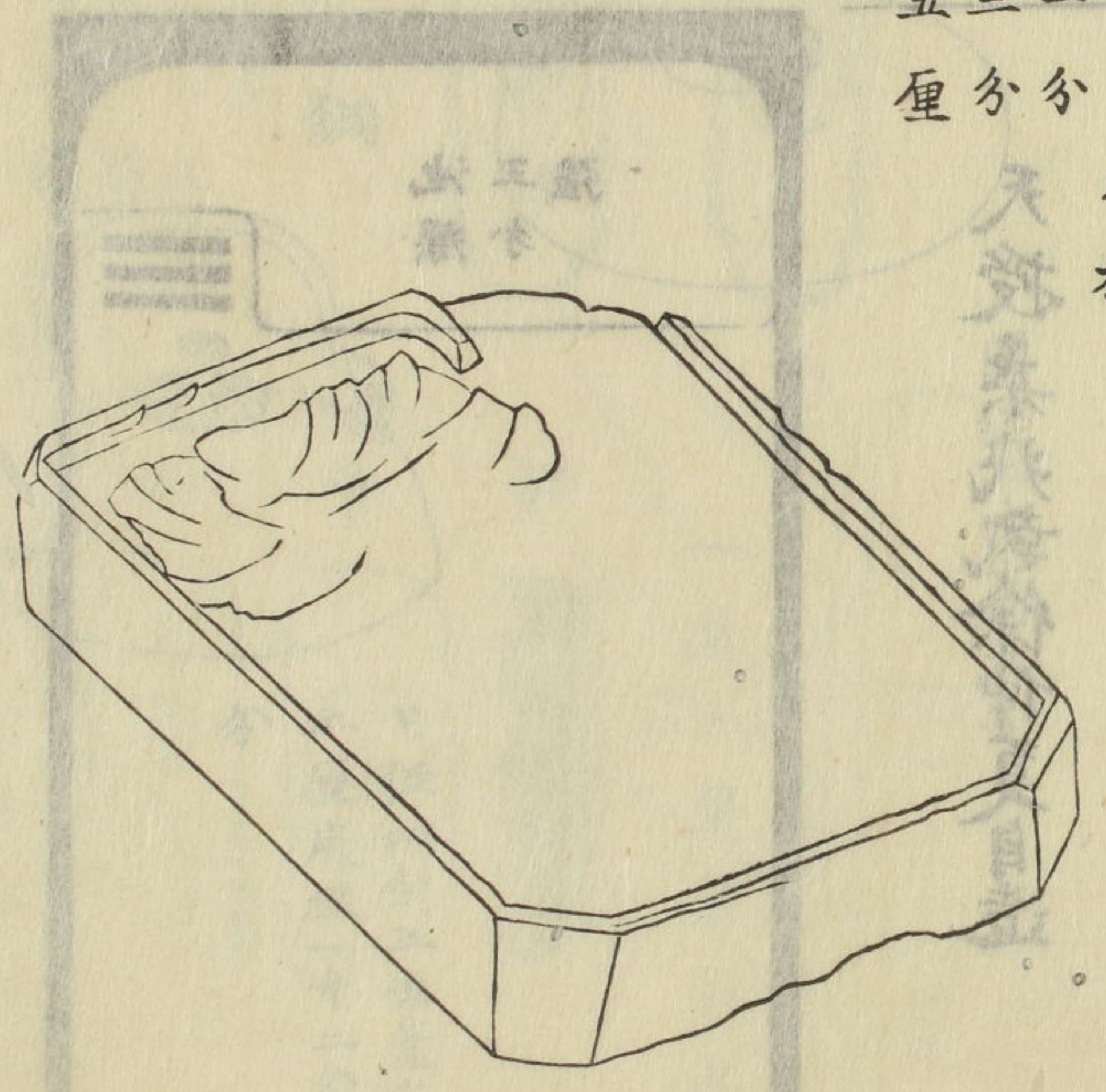
食堂常住

安永二年卯七月日

烏染方郎

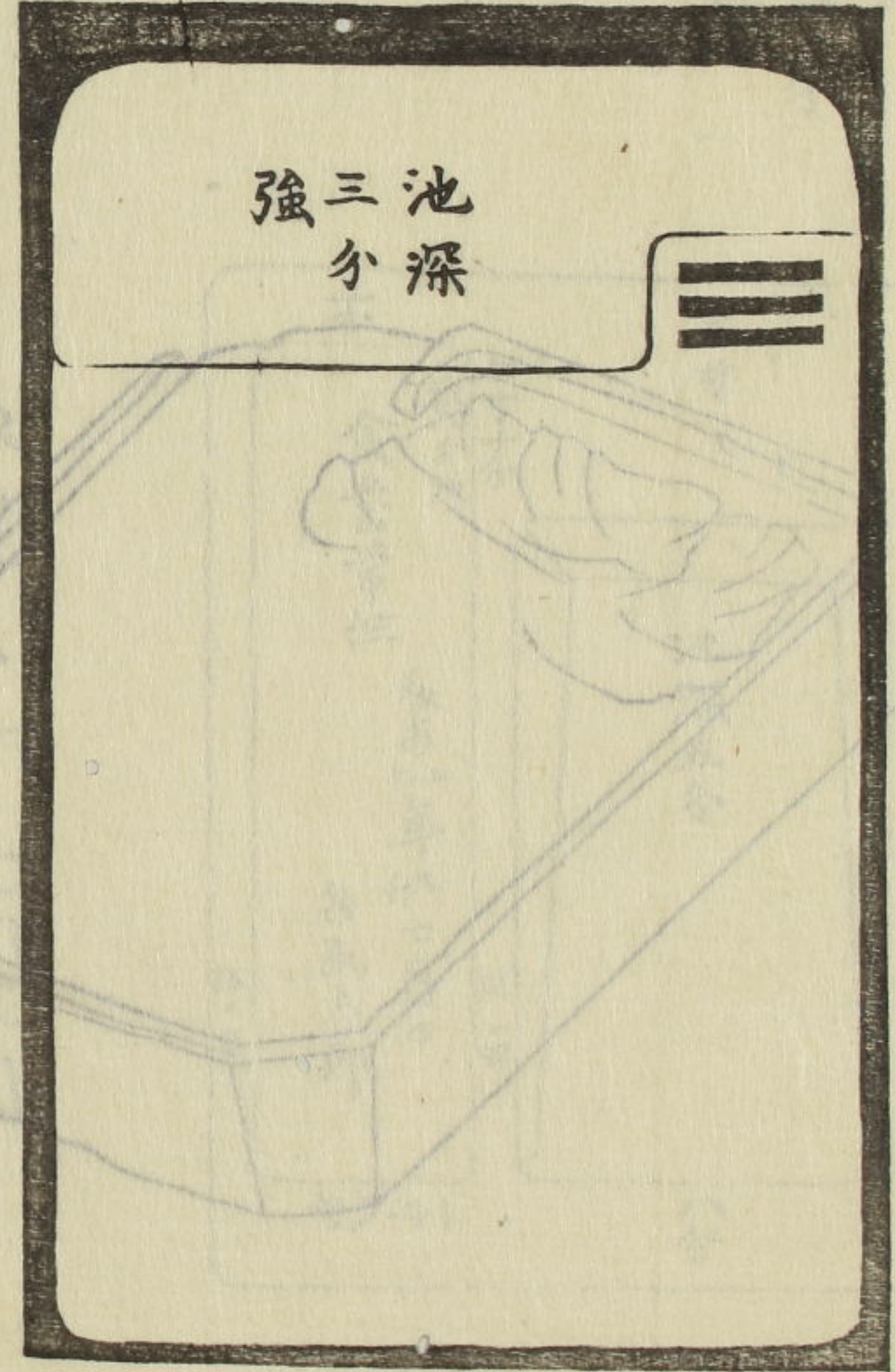
紫石研
俗生寺所藏
曰忠峯様

長四寸一分
廣三寸三分
厚七分五厘



紫石軌卦研

長四寸
廣七分
厚八分

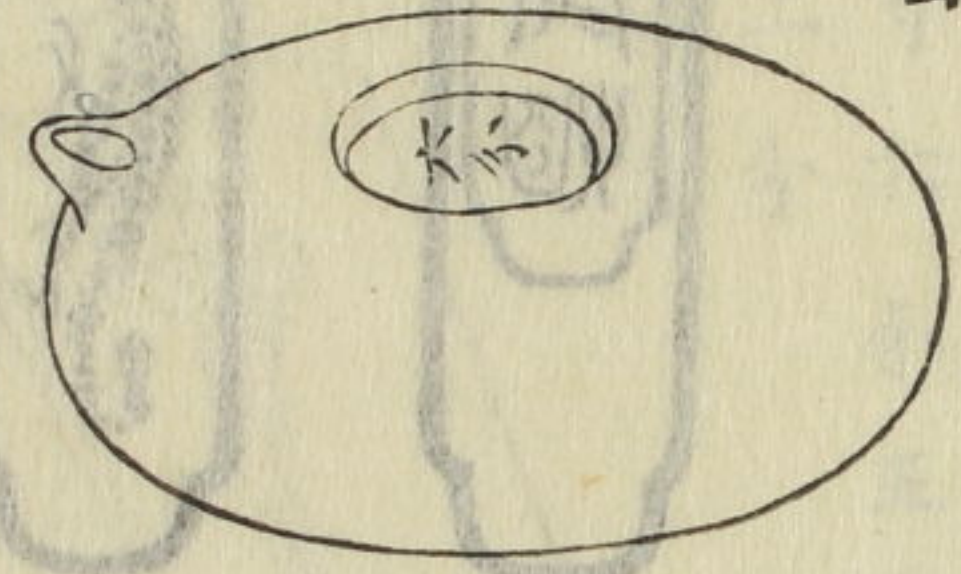


天授桑兆軌徐仲夏自造

紫石軌卦研
背
四寸
厚八分

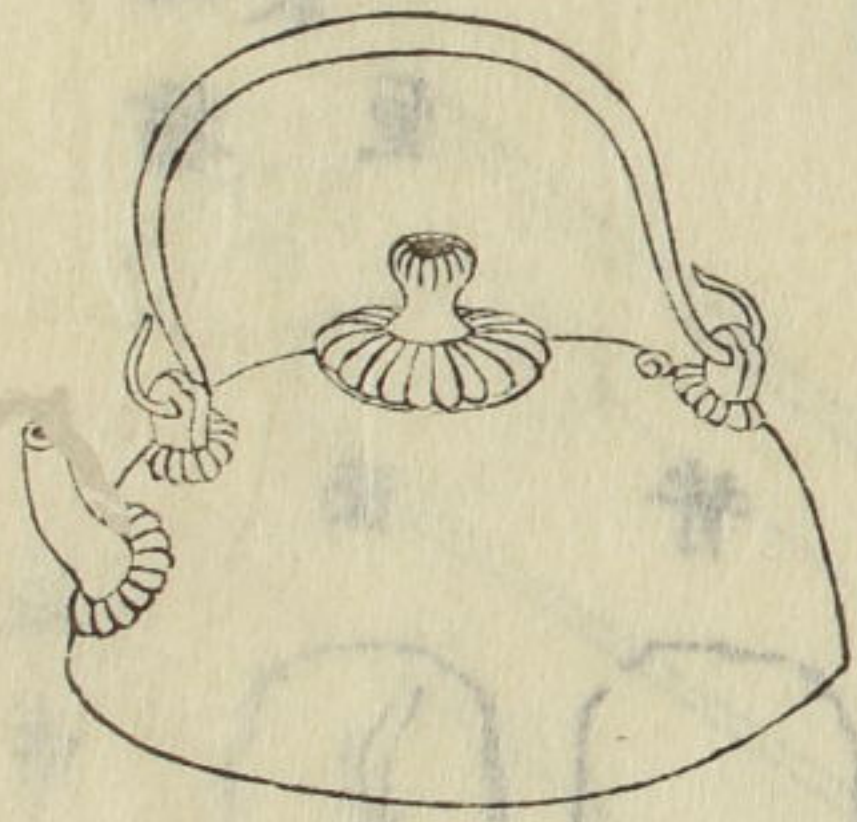
古水滴

窰



銅

圓徑二寸高九分



口徑四分五厘蓋高二分
五厘底徑一寸二分高七分

古墨

以興福寺二諦坊
 所傳墨模所製
 長二寸六分五厘
 廣六分五厘
 厚三分五厘



東寺所傳殘墨

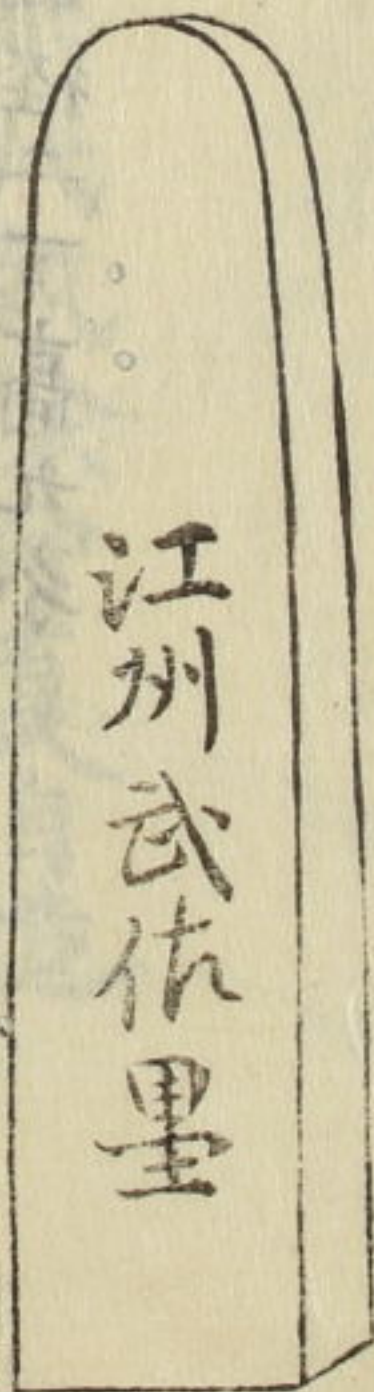
面

背

側



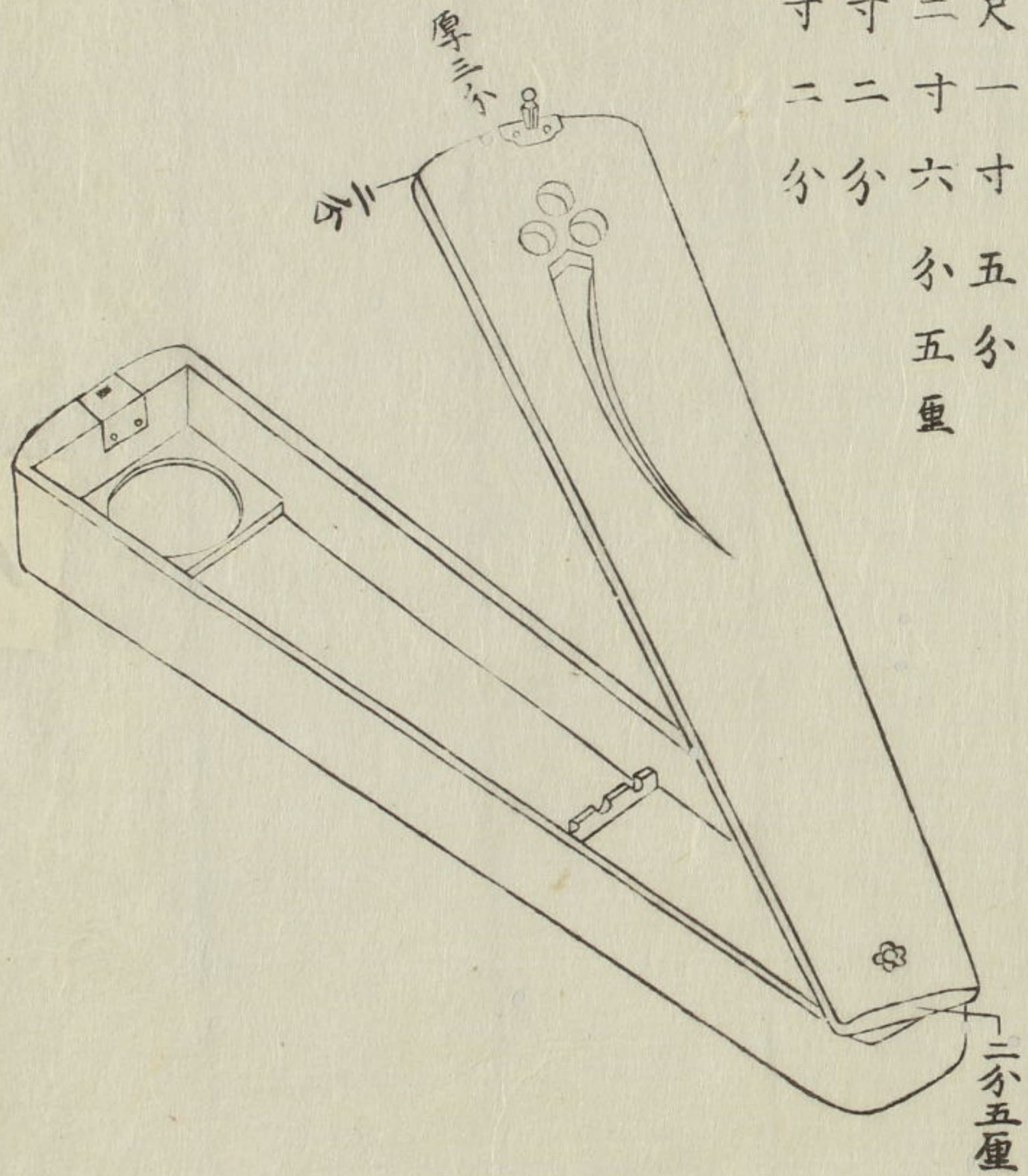
一友人家藏殘墨



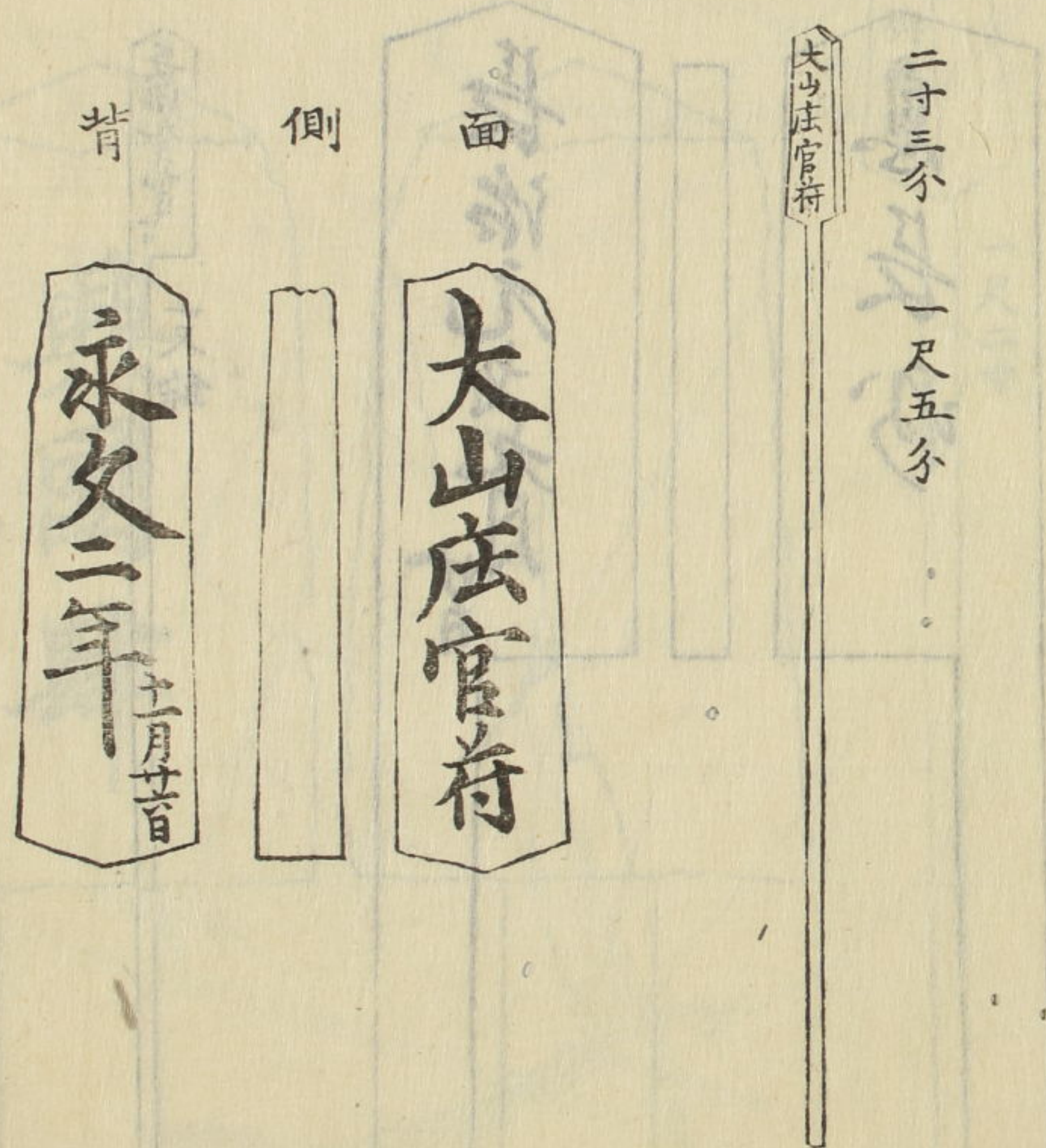
古水齋

研匣

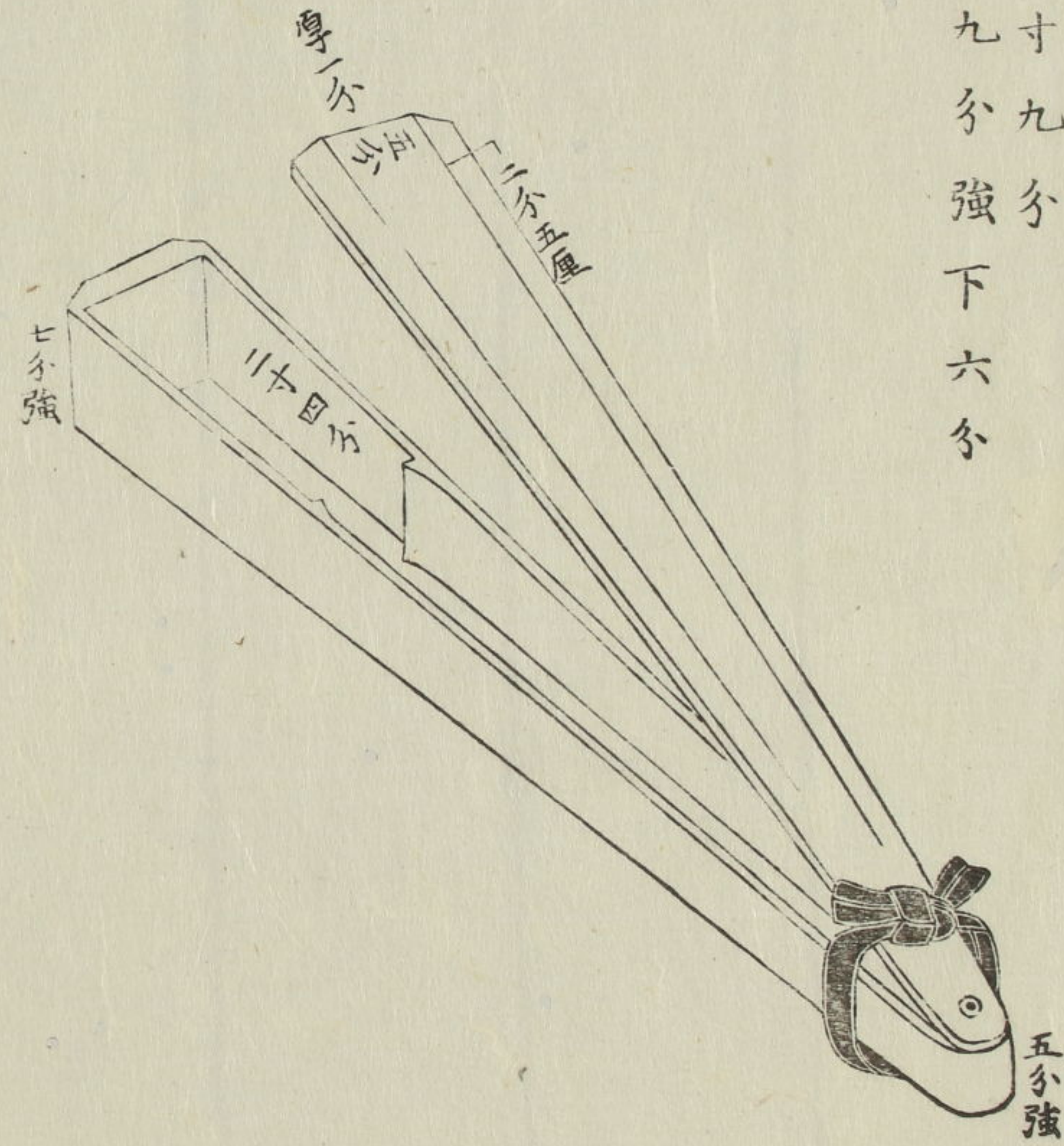
乃樂春日
 社所傳
 長一尺一寸五分
 廣上二寸六分五厘
 下二寸二分
 側一寸二分



籛
所東傳寺



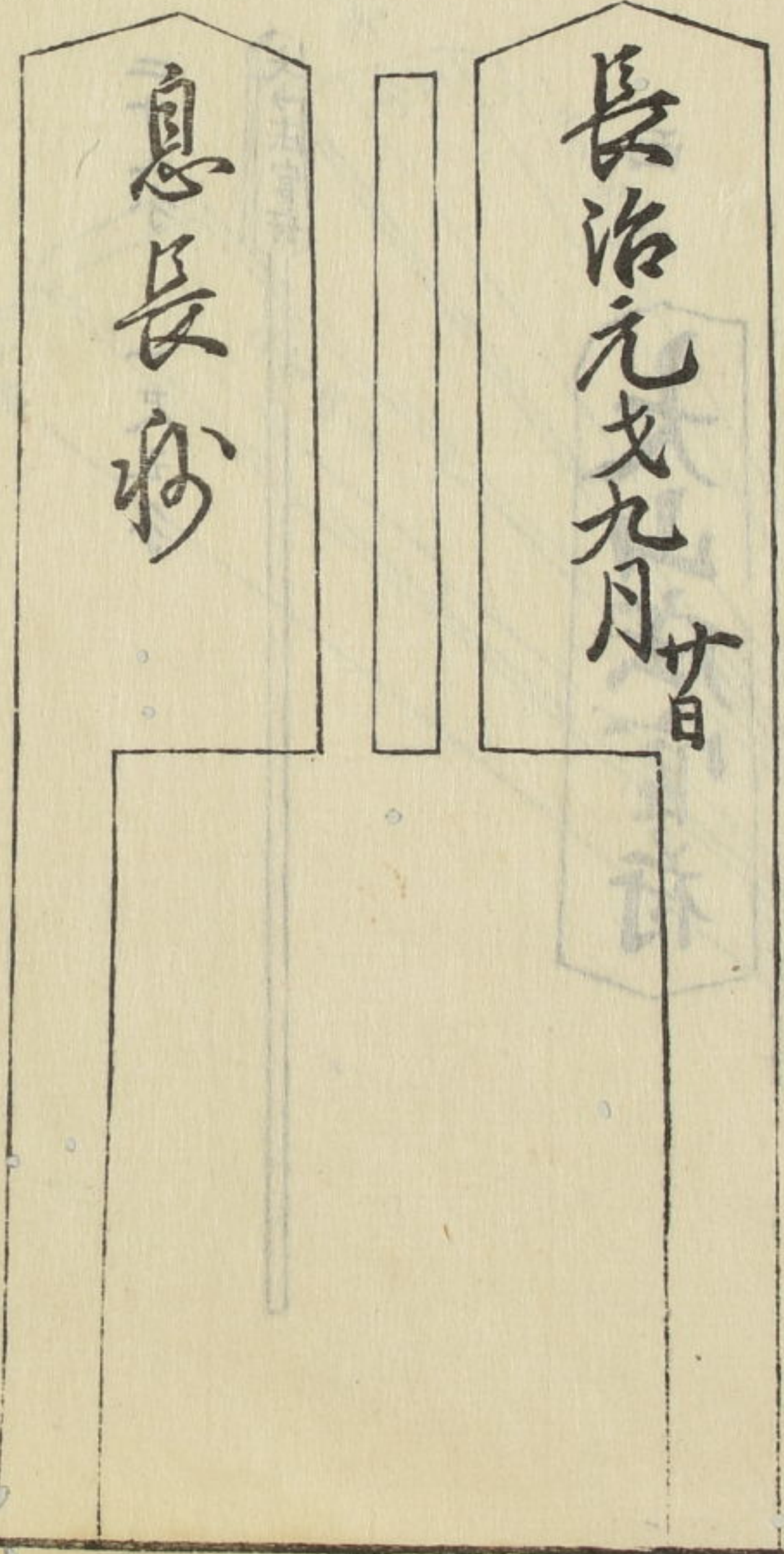
小研匣
一故家
所傳
長八寸九分
廣上九分強
下六分



永東大寺
所傳

薩
東
寺

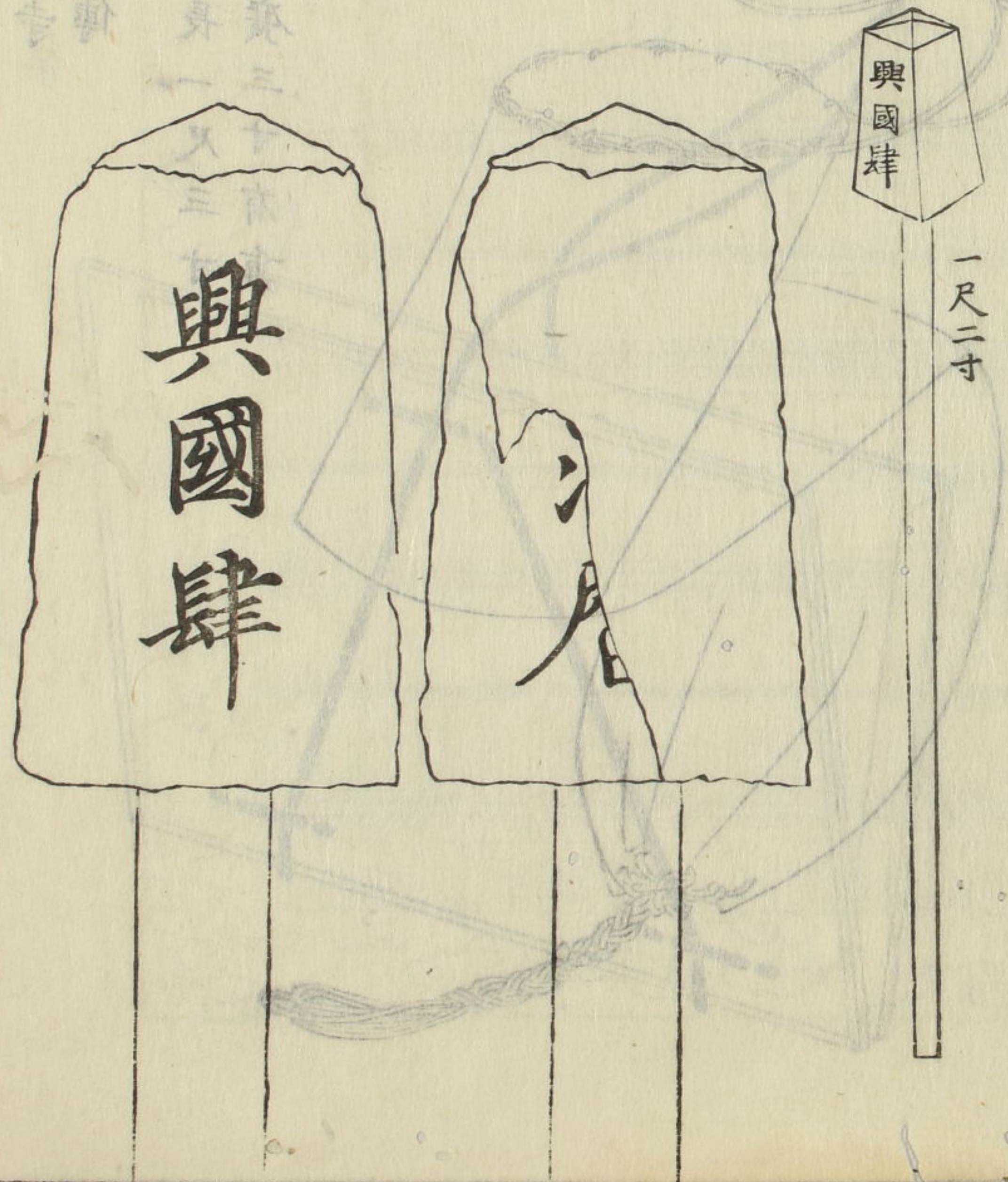
背 側 面



長治元九月
一尺餘

又
所傳
故家

背 面

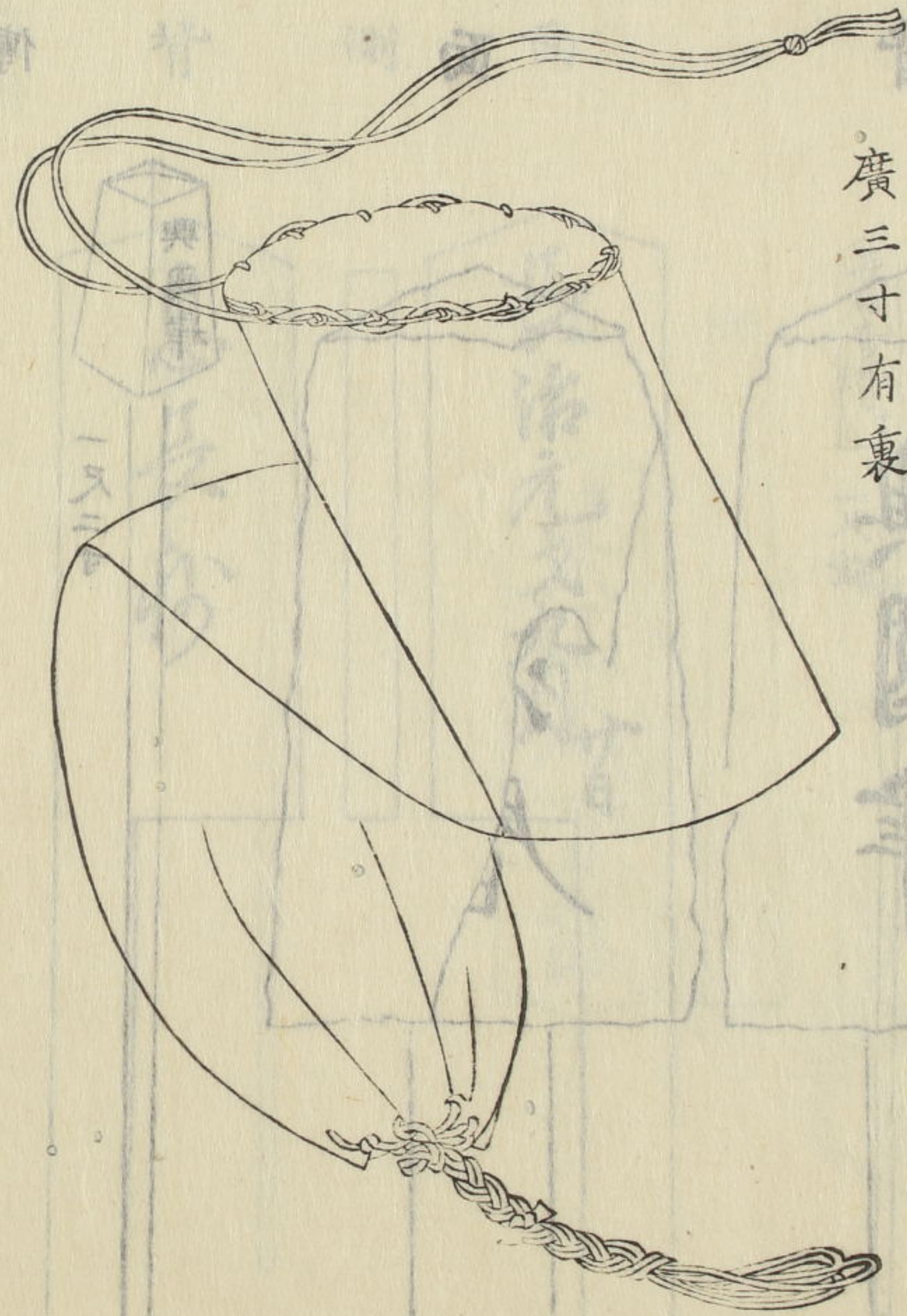


興國肆
一尺二寸

書囊

東寺
所傳

長一尺三寸
廣三寸有裏

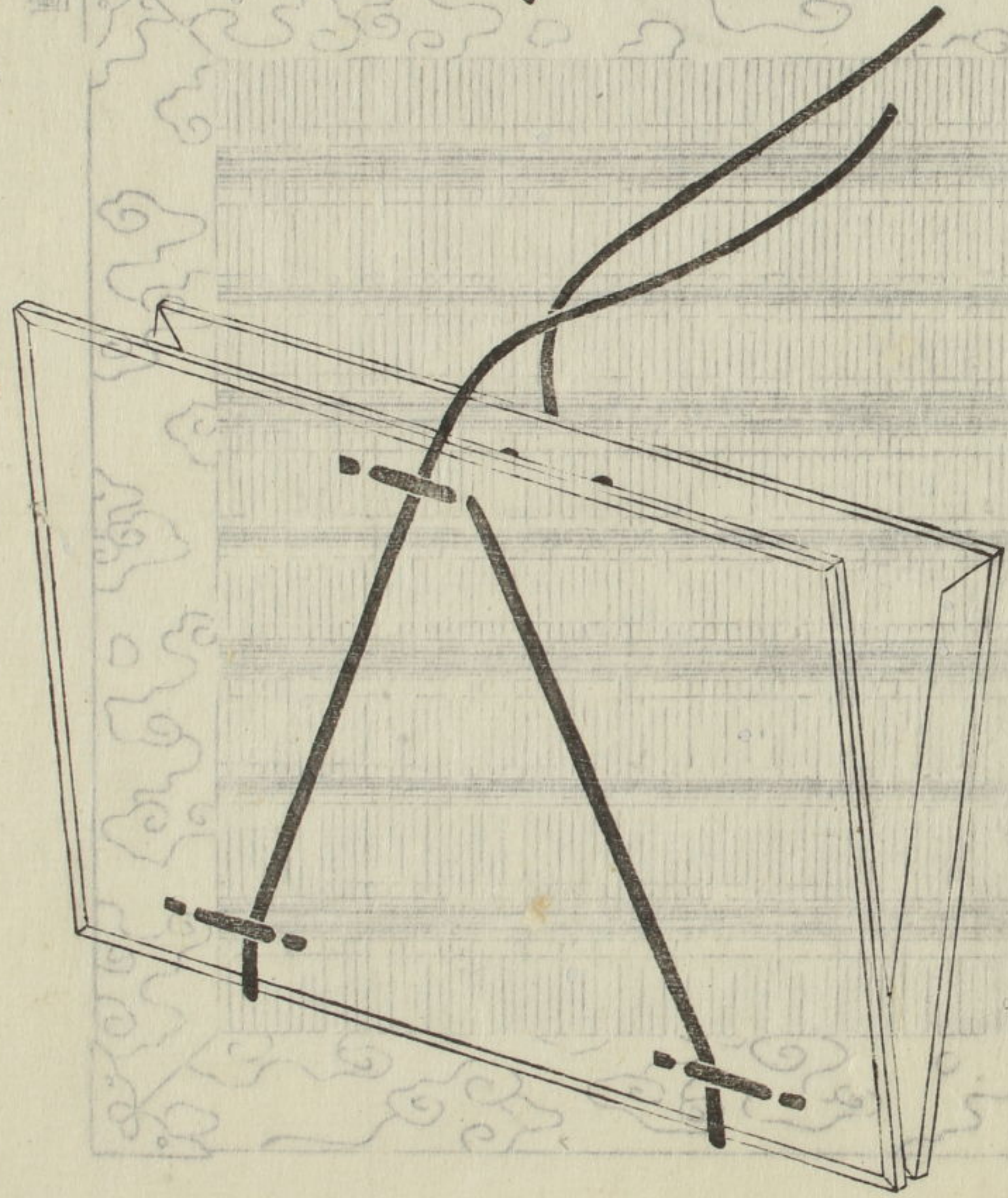


附九

造紙形

一故家
所傳

板長九寸
廣六寸
厚一分
三寸
蕭七厘
費一尺
立本
身一尺



竹神
一始
圖

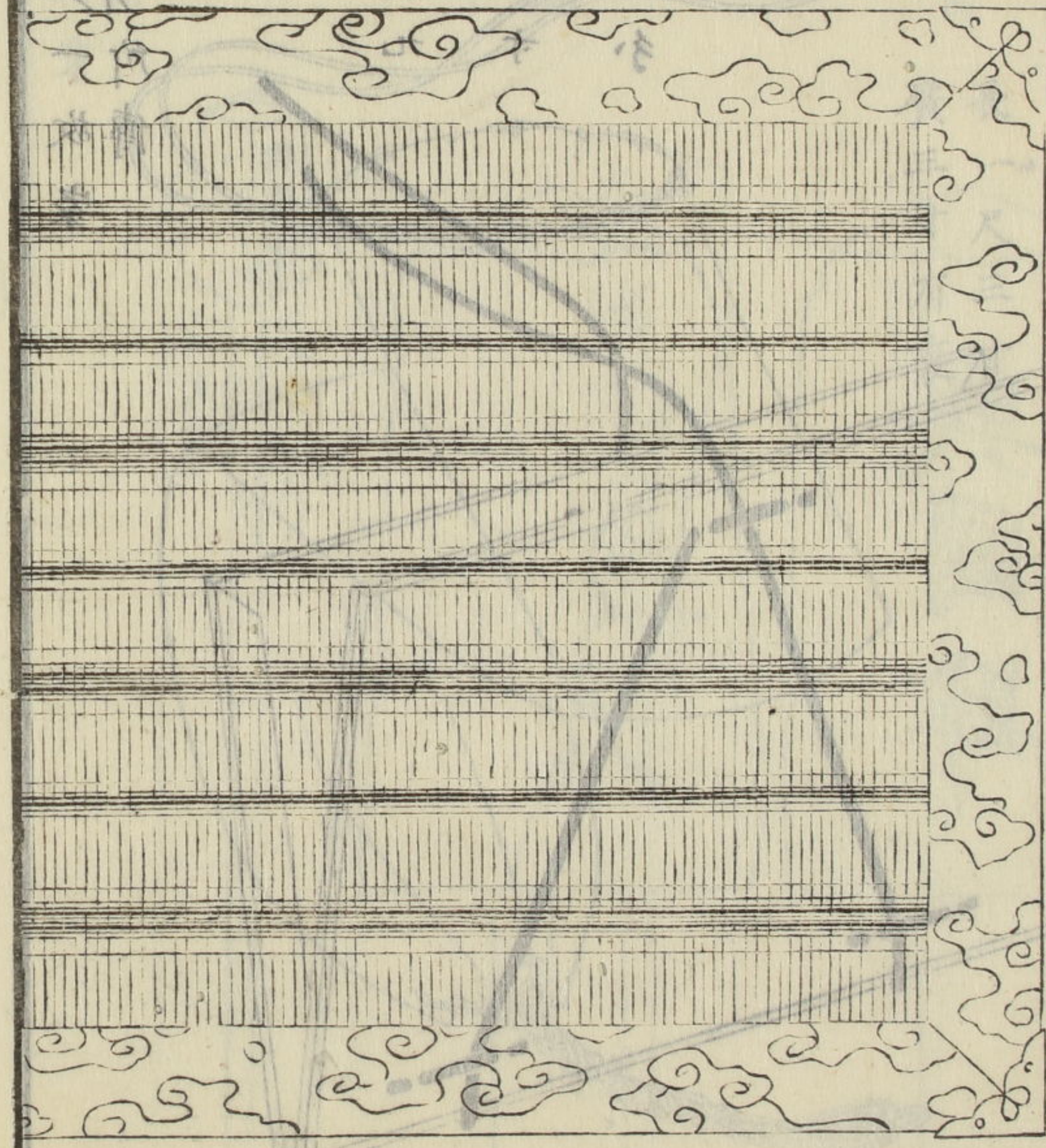
附十

竹帙 一故舊
所圖

長一尺
五分
廣一尺
三寸
韻緋綾

琳卡 廣三寸
身六寸

豈然



附十

牙籤

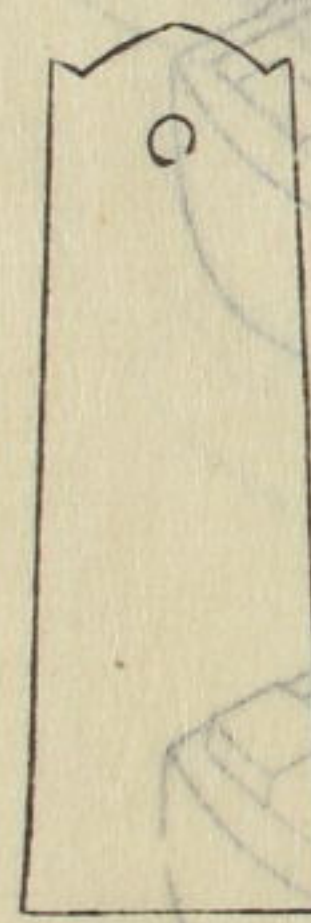
法隆寺所傳



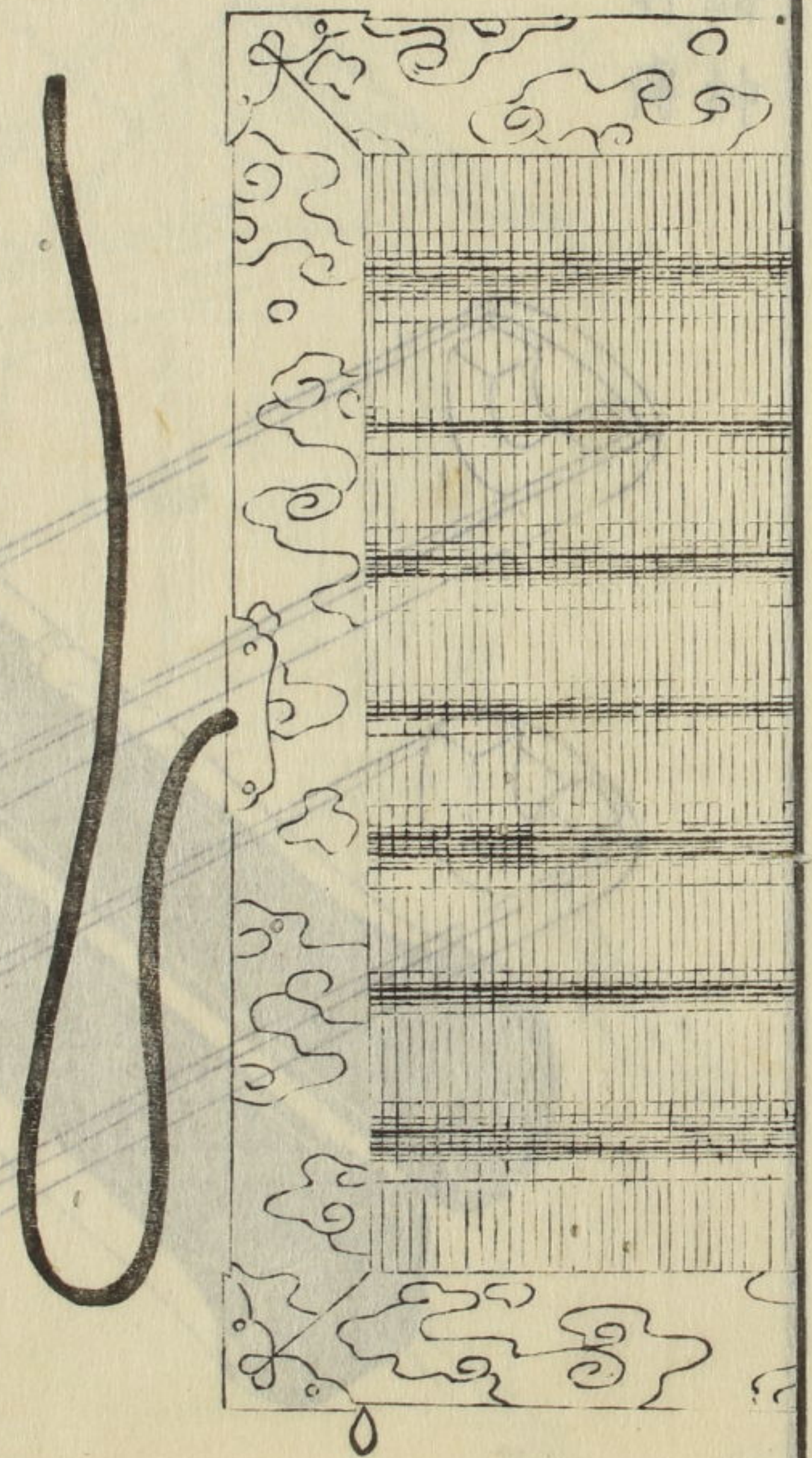
厚五厘

木

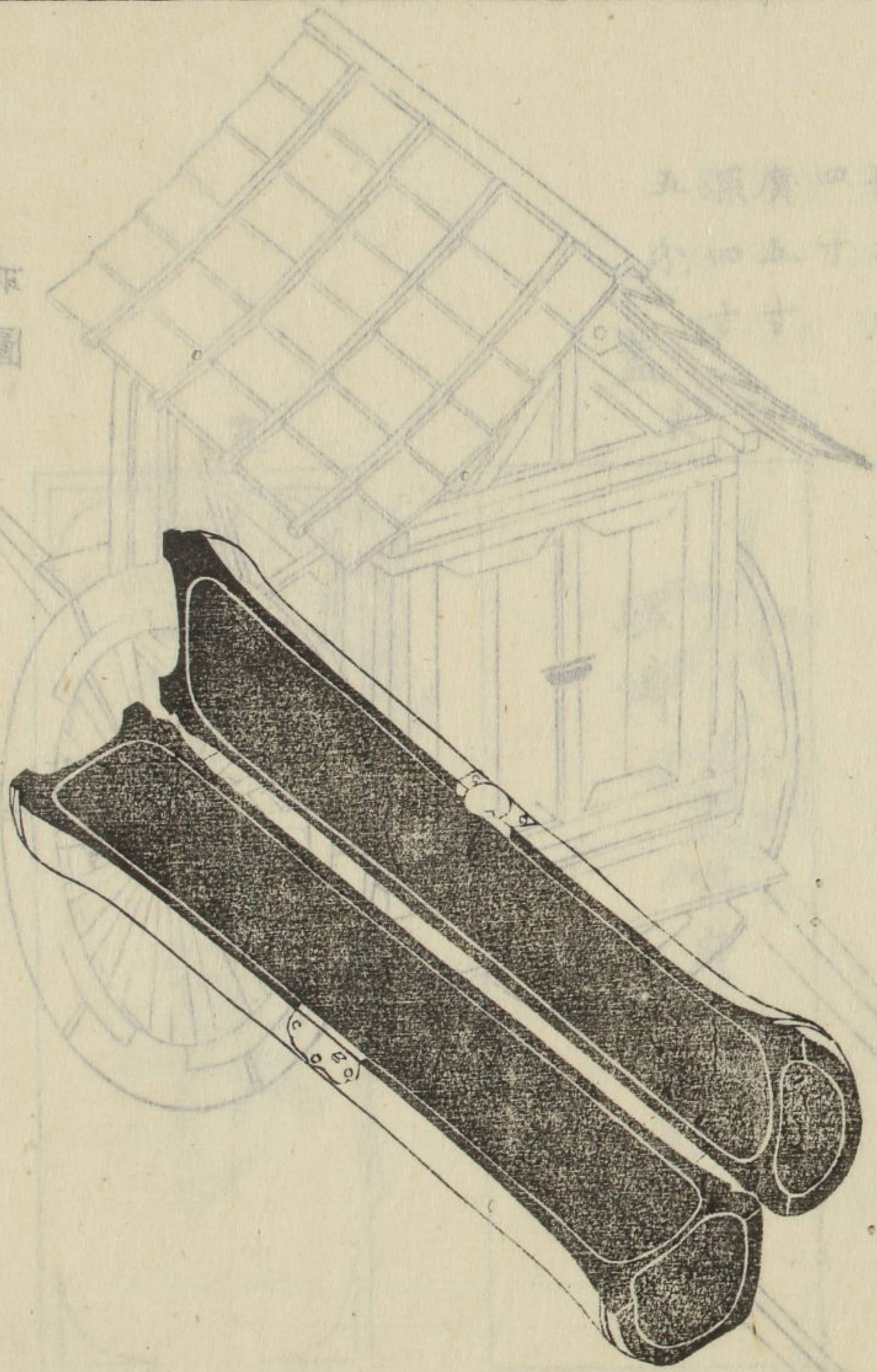
東寺所傳



厚一分



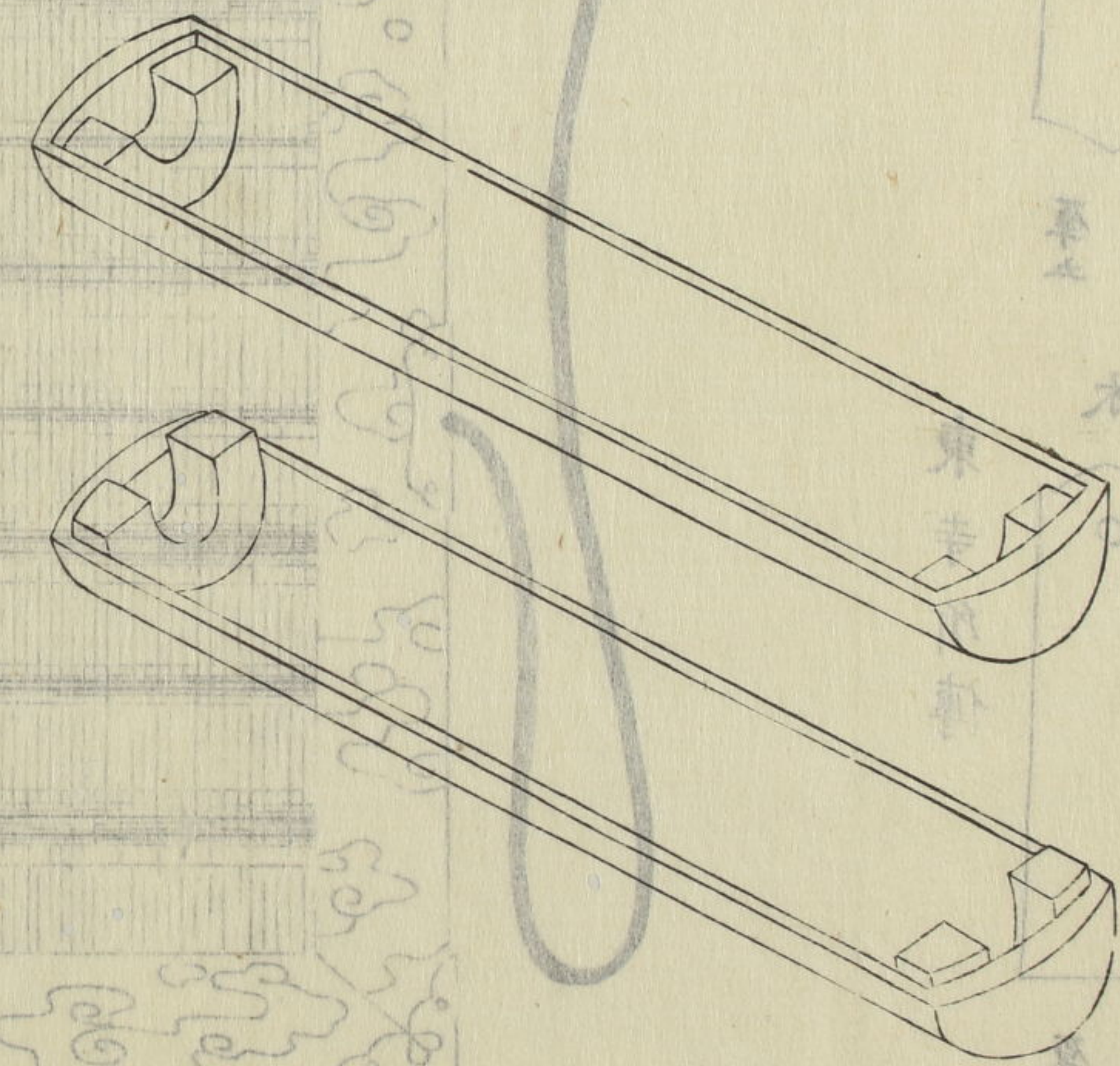
書車
古圖



又一
家所傳

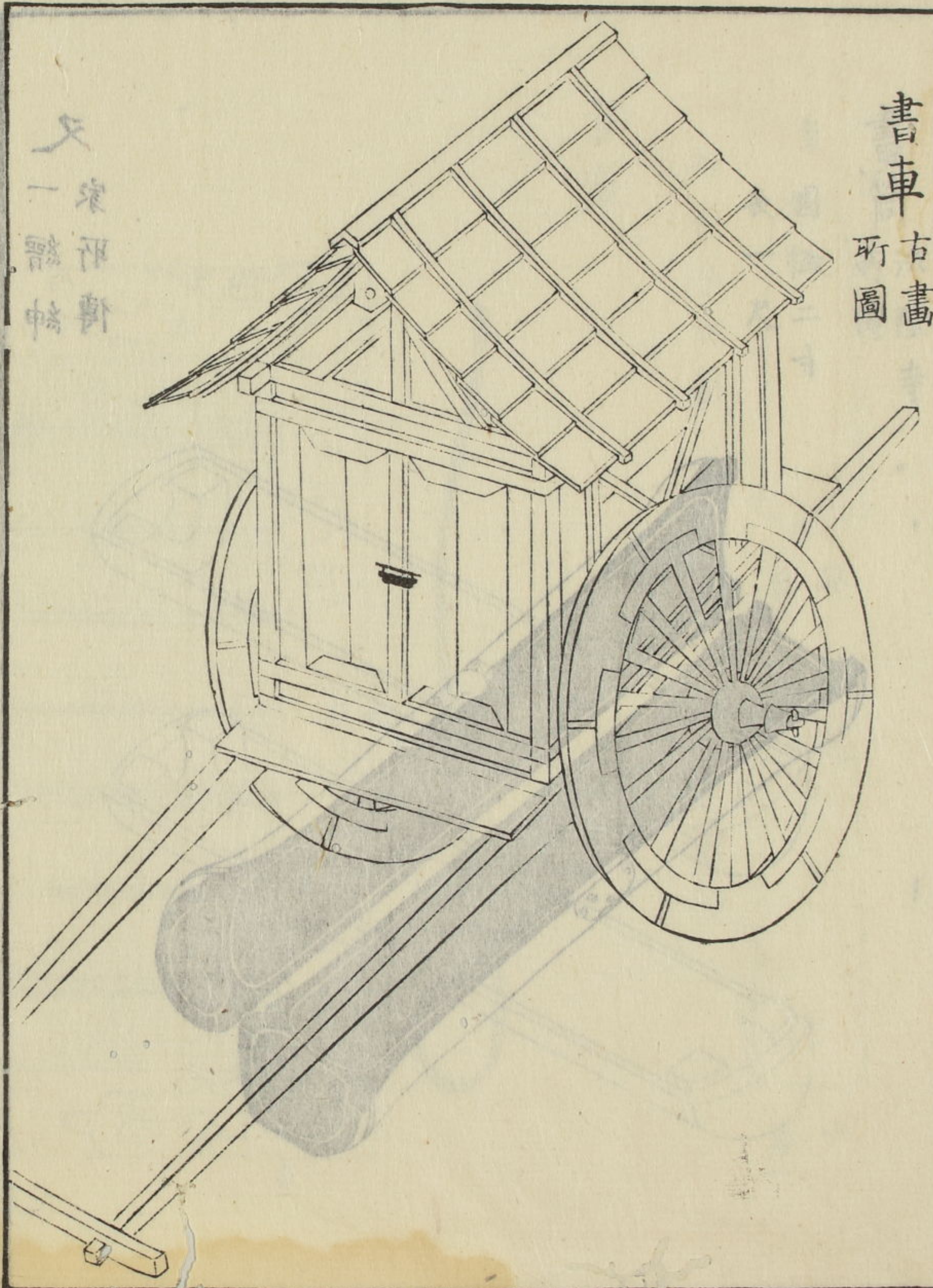
書筒
法隆寺
所傳

圓徑二寸
長一尺



附士

書車 古畫
所圖



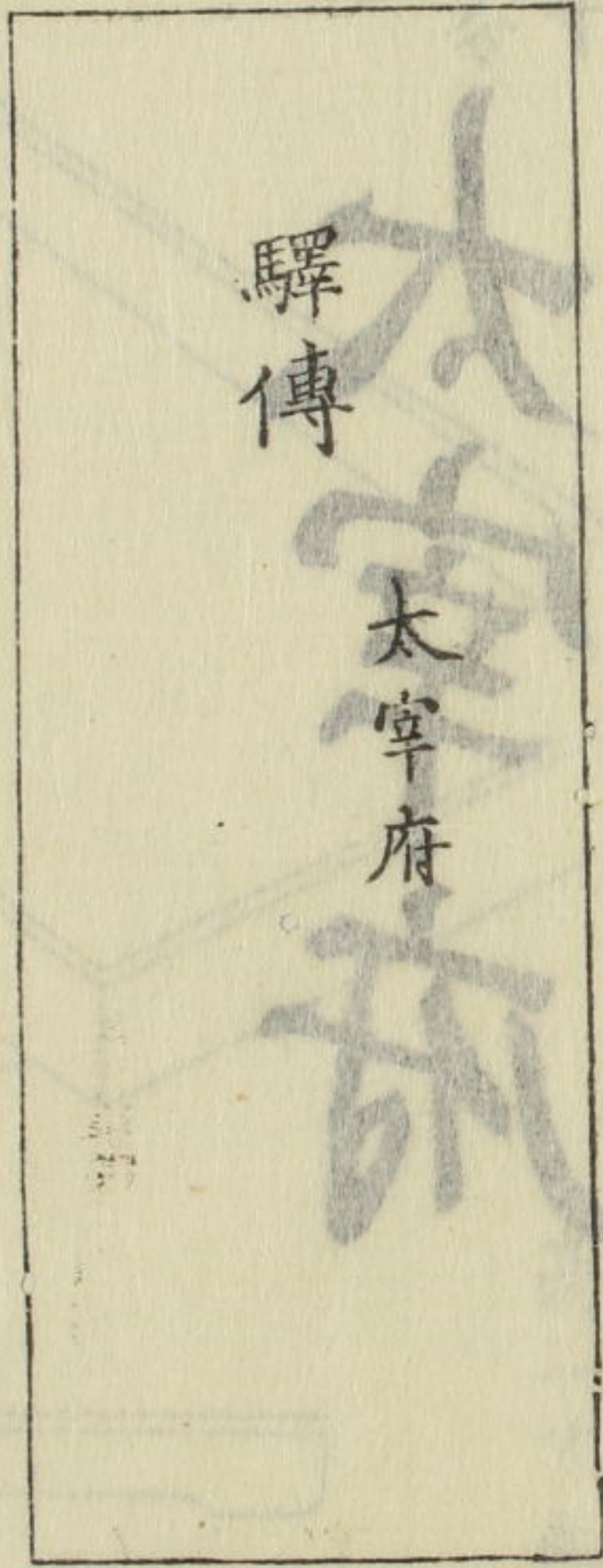
又宋初對
一器中

附士

驛傳古函

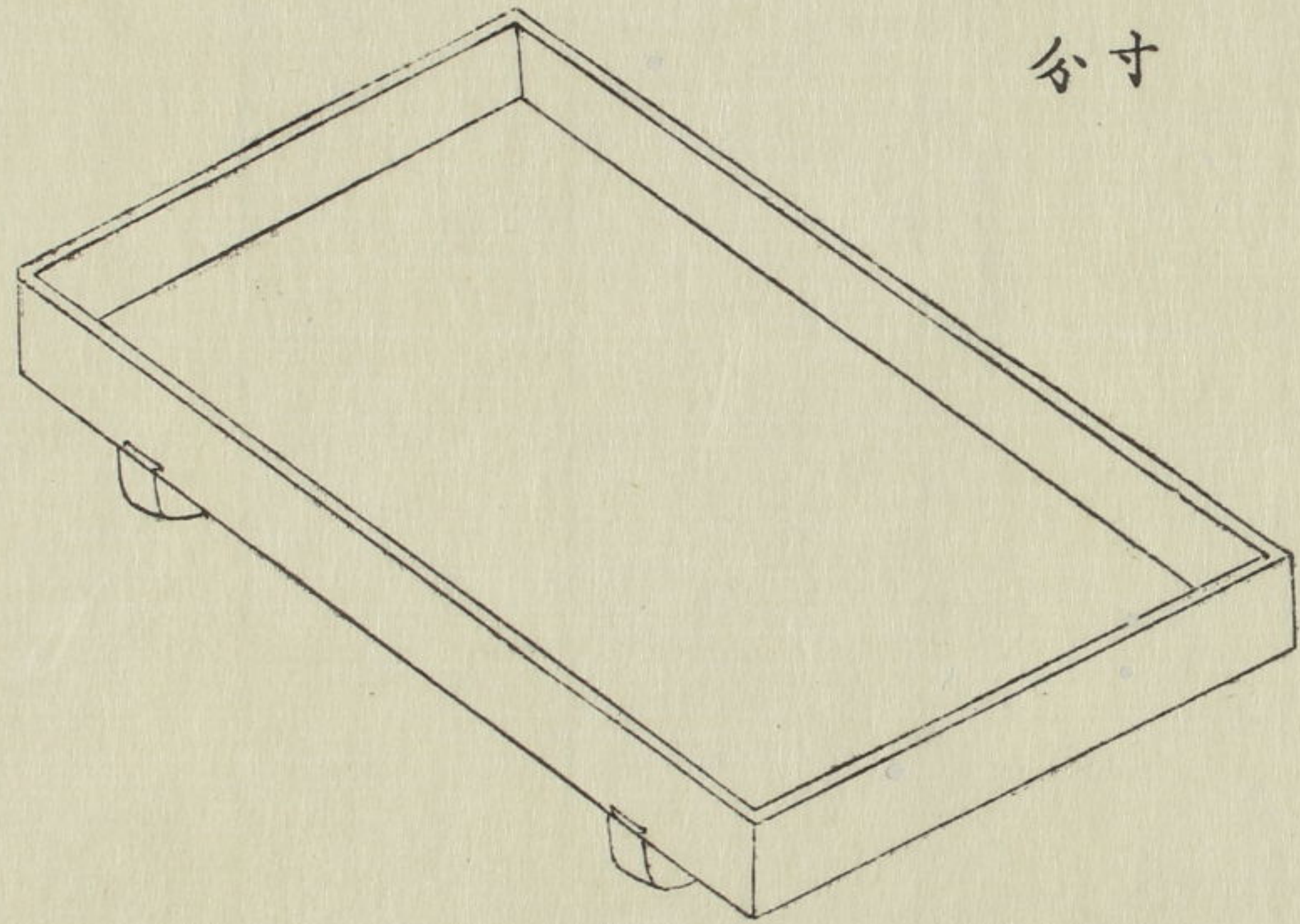
長一尺
四寸
廣五寸
四分
深五寸
五分
蓋表

裏

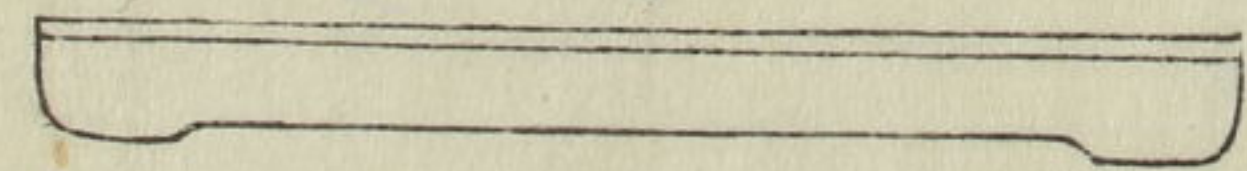


宮形

長二尺
廣一尺三寸
高二尺四寸
足外三寸



足



廣一寸
高一寸五分

觀
專
古
隨

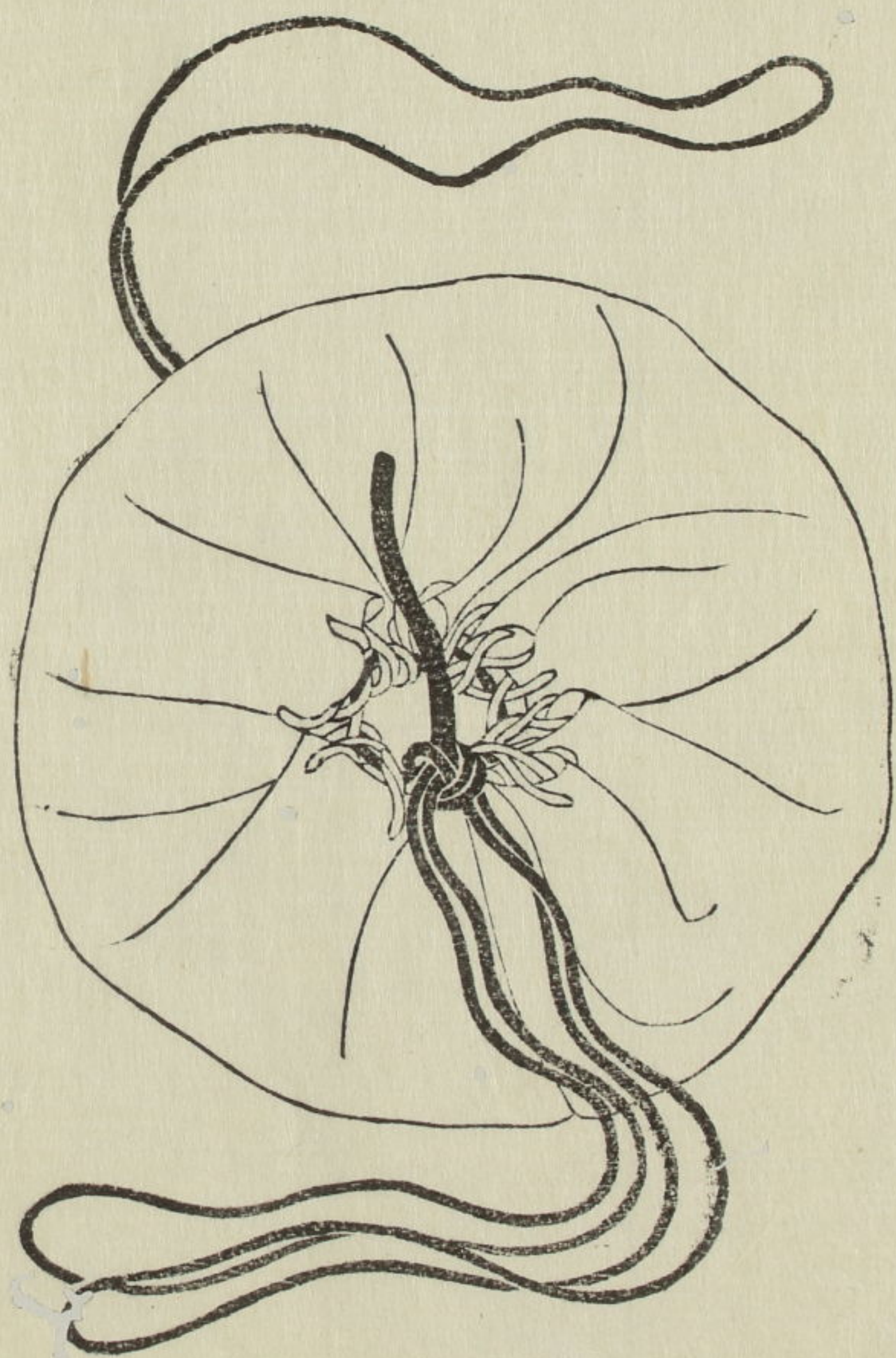
身四尺
一十寸
又

太宰府

驛傳

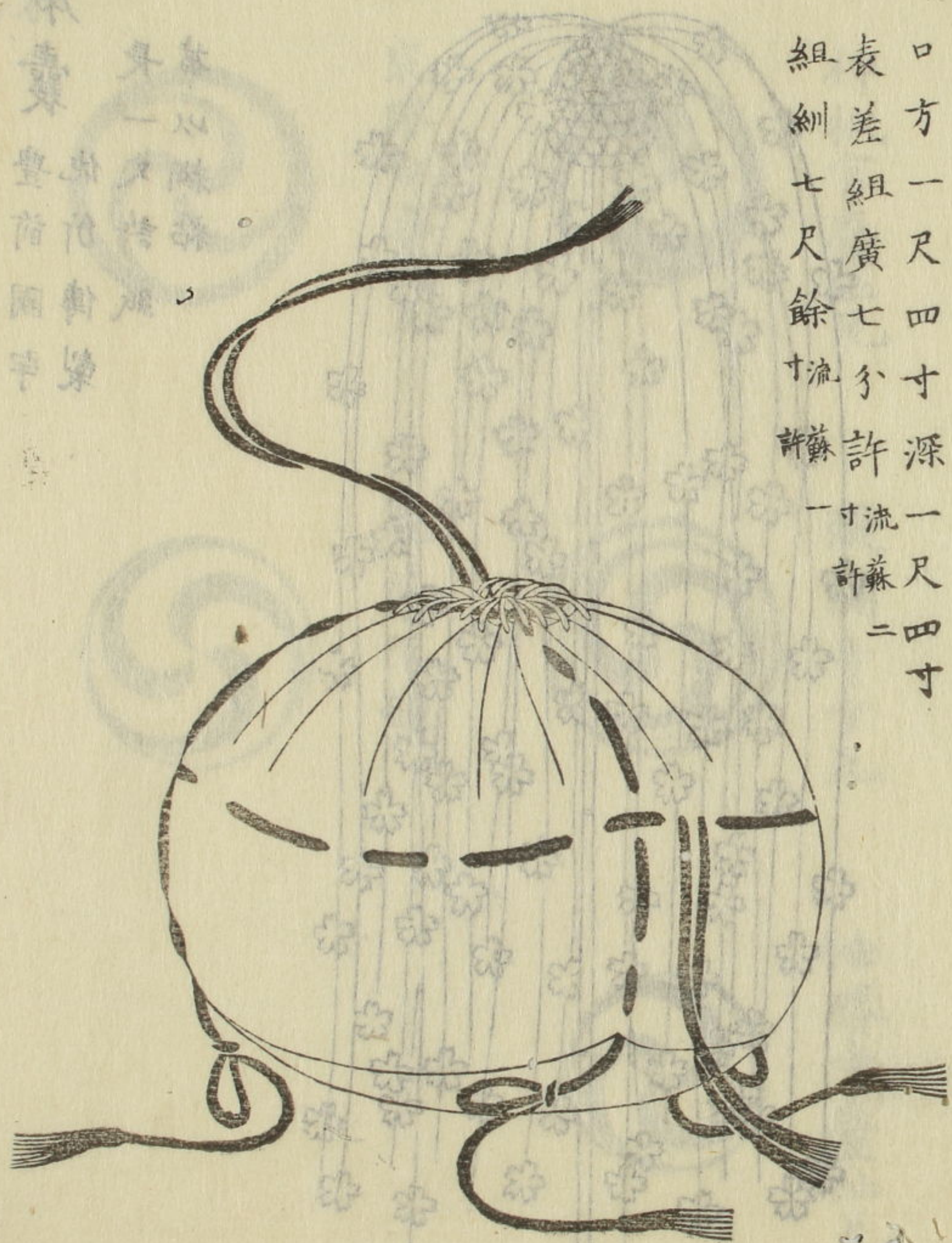
燧囊

一故家
所傳
面背
同製



戴囊

口方一尺四寸深一尺四寸
表差組廣七分許流蘇一寸許
組紉七尺餘寸流蘇許



宋
豐
商
周
平
皇
帝
禮
記
卷
第
一
十
一
禮
器
第
一
十
一
節
燧
囊
戴
囊

巴紋

神祇官廢址瓦



寂勝寺廢址瓦



醍醐寺古瓦



鹿苑院鐘



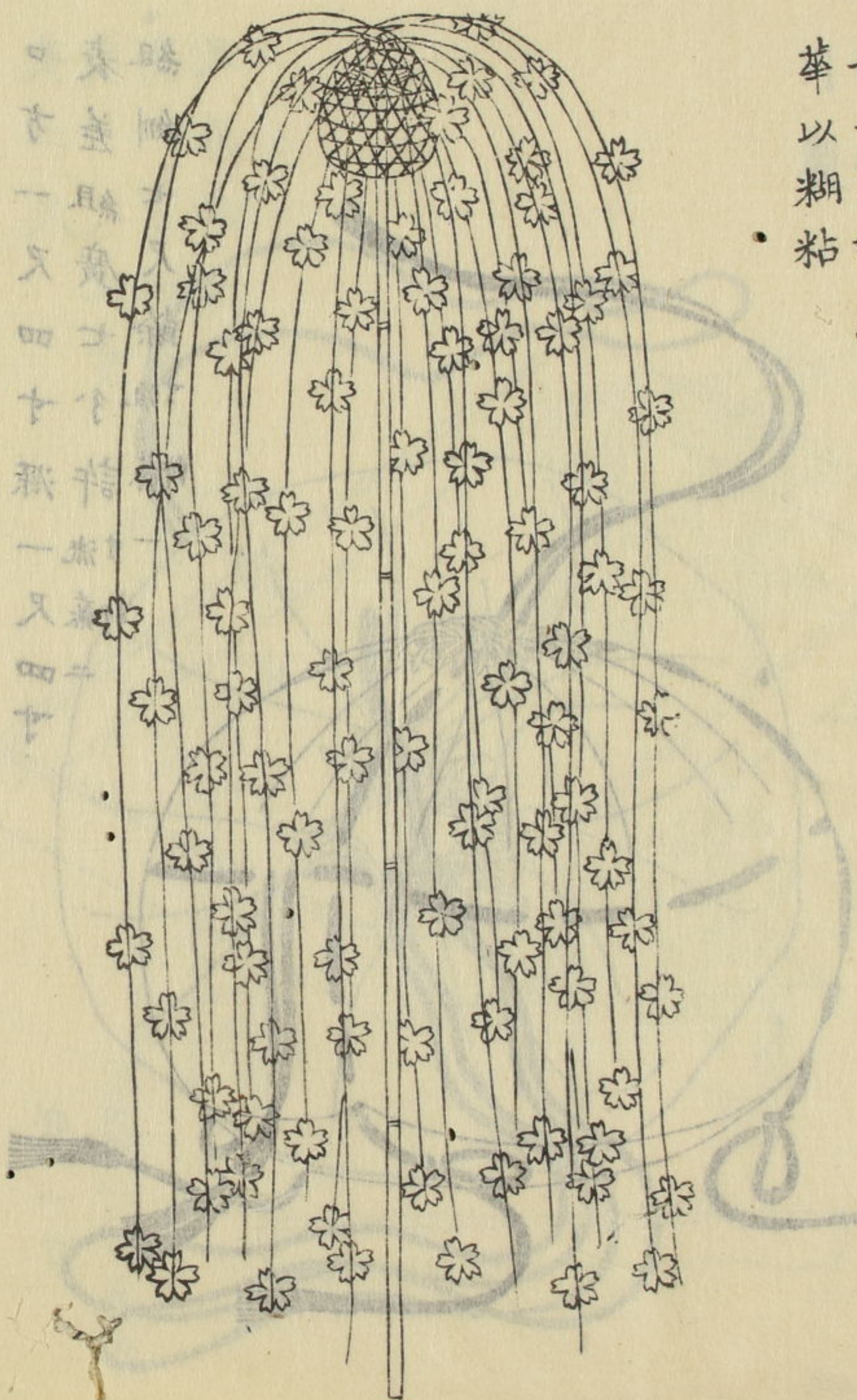
法勝寺廢址瓦



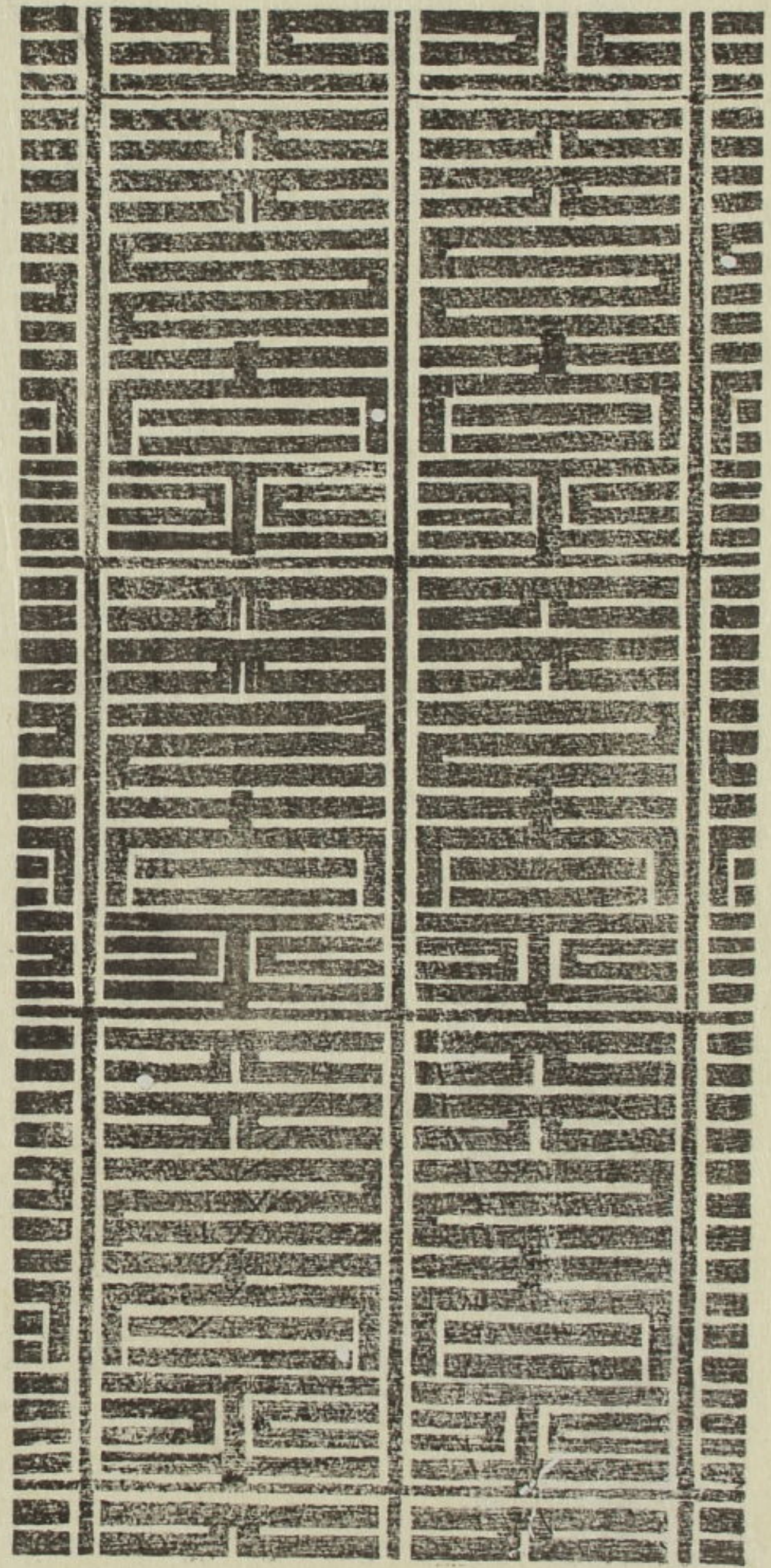
麻囊 豐前國宇佐所傳製

長一文許紙
華以糊粘

旗囊



古繡
文曰天
下太平



附錄
尾



寬政七年乙卯九月刊行

林伊兵衛

小川多左衛門

西田莊兵衛

北村莊助

鶴鶴惣四郎

平安書舖

